

口頭発表プログラム

■第1日目午後

6月2日(月)	第2会場	第3会場
13:45	201 座長 宍戸雅宏 <i>Colletotrichum spinosum</i> の細胞学的核型解析 ●上中谷瞳 ¹ ・小川真実 ² ・久保康之 ² ・多賀正節 ¹ (¹ 岡大院自然・ ² 京府大院生環)	301 座長 竹本大吾 非病原性 <i>Alternaria alternata</i> における conditionally dispensable chromosome (CDC) 様染色体の探索 ○赤木靖典 ¹ ・柘植尚志 ² ・有江 力 ³ ・児玉基一朗 ¹ (¹ 鳥取大農・ ² 名大院生農・ ³ 農工大院農)
13:57	202 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> 種複合体の分子系統解析に基づくカキ炭疽病の病原学名変更 ○佐藤豊三 ¹ ・森脇丈治 ² ・澤岬哲也 ³ (¹ 生物研・ ² 富山園研・ ³ 沖縄農研)	302 キャベツ萎黄病菌およびトマト萎凋病菌が持つ小型染色体配列の解析 ○柏 毅 ^{1,2} ・古崎利紀 ³ ・石井一夫 ³ ・寺岡 徹 ³ ・小松 健 ³ ・有江 力 ³ (¹ 農工大院連農・ ² 学振DC・ ³ 農工大院農)
14:09	203 <i>Colletotrichum fructicola</i> Prihastuti, L. Cai et K.D. Hyde によるピーマン炭疽病 (病原追加) ○正司和之 ¹ ・黒瀬大介 ² ・吉田重信 ² ・佐藤育男 ² ・對馬誠也 ² ・田代暢哉 ¹ (¹ 佐賀上場営農セ・ ² 農環研)	303 標的遺伝子破壊法や RNA silencing 法を用いた ACT 毒素生産菌が特異的に保持する <i>ACTTS</i> 遺伝子群の機能解析 ●勝本真衣 ¹ ・小川将興 ¹ ・石本卓也 ¹ ・二階堂佐紀 ¹ ・大谷耕平 ¹ ・溝渕優希 ¹ ・宮本蓉子 ¹ ・増中 章 ¹ ・福元健志 ¹ ・柘植尚志 ² ・山本幹博 ³ ・五味剣二 ¹ ・市村和也 ¹ ・秋光和也 ¹ (¹ 香川大農・ ² 名大院生農・ ³ 岡大院自然科学)
14:21	204 ショウガ白星病とミョウガ葉枯病の病原菌比較 ○矢野和孝 ¹ ・富岡啓介 ² ・森田泰彰 ¹ (¹ 高知農技セ・ ² 近中四農研)	304 非病原性 <i>Alternaria alternata</i> への宿主特異的 AAL 毒素合成遺伝子クラスター導入による AAL 毒素前駆体産生株の作出 ○高尾和実 ¹ ・赤木靖典 ¹ ・柘植尚志 ² ・難波栄二 ³ ・児玉基一朗 ¹ (¹ 鳥取大農・ ² 名大院生農・ ³ 鳥取大医)
14:33	205 国内品種を用いたトマト葉かび病菌のレース判別 ○窪田昌春 ¹ ・津田新哉 ² (¹ 農研機構野菜茶業研究所・ ² 農研機構 中央農業総合研究センター)	305 オオムギうどんこ病菌 <i>Blumeria graminis</i> f.sp. <i>hordei</i> の細胞学的核型解析 ●高谷俊宏 ¹ ・豊田和弘 ² ・多賀正節 ¹ (¹ 岡大院理・ ² 岡大院農)
14:45	206 座長 渡辺京子 3種高温性ピシウムの遊走子形成への温度と培養液 EC の組合せの影響 ○鈴木幹彦・影山智津子・伊代住浩幸 (静岡農林技研)	306 座長 多田安臣 タマネギ乾腐病菌における <i>SIX</i> 遺伝子ホモログの解析 ●佐々木一紀・田中秀平・伊藤真一 (山口大農)

第4会場	第5会場	第6会場
<p>401 座長 吉岡博文 The Tin2 effector protein of <i>Ustilago maydis</i>: function and uptake by plant cells ○Tanaka, S., Römer, M., and Kahmann, R. (Max Planck Institute for Terrestrial Microbiology)</p> <p>402 キチンナノファイバーのエリシター活性と病害抵抗性誘導能 ○江草真由美^{1,2,3}・松井英譲⁴・奥田真未²・伊福伸介¹・中神弘史⁴・上中弘典² (¹鳥取大院工・²鳥取大農・³鳥取大産学連携・⁴理研 CSRS)</p> <p>403 Direct regulation of the NADPH oxidase RBOHD by the PRR associated kinase BIK1 is required for ROS burst and plant immunity ○Kadota, Y.^{1,2}, Sklenar, J.¹, Derbyshire, P.¹, Stransfeld, L.¹, Asai, S.^{1,2}, Ntoukakis, V.¹, Jones, J.D.G.¹, Shirasu, K.², Menke, F.¹, Jones, A.¹, and Zipfel, C.¹ (¹The Sainsbury Laboratory・²RIKEN CSRS)</p> <p>404 ニトロソ化候補タンパク質モノデヒドロアスコルビン酸レダクターゼ (MDHAR) のベンサミアナタバコにおける抵抗反応への関与 ●瀧波依里子¹・加藤大明²・竹本大吾¹・川北一人¹ (¹名大院生農・²岩手生工研)</p> <p>405 イネの感染防御応答におけるオートファジーの役割の解析 ●二平耕太郎¹・来須孝光^{1,2}・高橋章³・安藤大智¹・佐谷南海子¹・花俣繁¹・北畑信隆¹・前田 哲³・森 昌樹³・小嶋美紀子⁴・榊原 均⁴・朽津和幸¹ (¹東京理科大院理工・²東京工科大応用生物・³生物研・⁴理研 CSRS)</p>	<p>501 座長 山次康幸 ユーラシア大陸におけるカブモザイクウイルス拡散の起点 ●八坂亮祐・深川裕史・池末 陸・早田裕子・大島一里 (佐賀大農)</p> <p>502 キュウリモザイクウイルス移行タンパク質と外被タンパク質遺伝子の進化速度の評価 ●松本康佑¹・副島健太¹・西山 舞¹・竹下 稔²・八坂亮祐¹・大島一里¹ (¹佐賀大農・²九大院農)</p> <p>503 九州地方における <i>Scallion mosaic virus</i> の遺伝的多様性 ●村岡聡史・三苦真一郎・八坂亮祐・大島一里 (佐賀大農)</p> <p>504 新潟市内のアブラナ科蔬菜類から分離された <i>Brassica yellows virus</i> (BrYV) について ●相崎 健・佐野義孝 (新潟大農)</p> <p>505 A phylogenetic study of coat protein gene of Tomato mosaic virus isolates from Iran ●Golnaraghi, A.¹, Nguyen, H.D.², Hamed, A.¹, Yazdani Khameneh, S.¹, and Ohshima, K.³ (¹Science and Research Branch, Islamic Azad University (IAU), Tehran, Iran・²Hanoi University of Agriculture, Hanoi, Vietnam・³Saga University, Saga, Japan)</p>	<p>601 座長 五味剣二 MAMP 応答性 ROS 制御因子 [MARK32] の機能解析 ○玄 康洙・松井英譲・野村有子・白須 賢・中神弘史 (理研 CSRS)</p> <p>602 MARK1 (MRP for appropriate ROS kinetics 1) は病原菌感染時の細胞死を負に調節する ○松井英譲・野村有子・中神弘史 (理研 CSRS)</p> <p>603 基部陸上植物ゼニゴケを用いた MAMP 応答機構の解明 ○四井いづみ¹・松井英譲¹・野村有子¹・西浜竜一²・河内孝之²・中神弘史¹ (¹理研 CSRS・²京大院生命科学)</p> <p>604 MAMP 誘導型免疫におけるサリチル酸生合成活性化シグナリングの分子基盤 ○峯 彰・津田賢一 (MPIPZ)</p> <p>605 β-アミリンを蓄積する組換え体イネにおける病害抵抗性亢進のメカニズムに関する解析 西羅達一朗¹・中辻由加里²・楠 和輝²・池田宏介¹・後藤優太²・眞野愛弓²・オズボーン アン³・松浦恭和⁴・森 泉⁴・平山隆志⁴・能年義輝^{1,2}・豊田和弘^{1,2}・白石友紀^{1,2,5}・山本幹博^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・○稲垣善茂^{1,2} (¹岡大院環境生命・²岡大農・³ジョーンズセンター・代謝生物・⁴岡大植物研・⁵現 岡山生物研)</p>
<p>406 座長 三瀬和之 カプシオール生合成遺伝子・<i>NtEAS4</i> の傷害誘導に関与するプロモーター領域の同定 ●小島知弥¹・光原一朗²・加藤新平¹ (¹信州大院・農・²生物研)</p>	<p>506 座長 伊藤隆男 ジャガイモやせいもウイルスまたはトマト退緑萎縮ウイルスの感染花粉で得られたトマト種子のウイルス種子伝染性の比較 ○溝口仙太郎¹・松下陽介²・津田新哉³ (¹サカタのタネ・²農研機構・花き研・³農研機構・中央農研)</p>	<p>606 座長 堀田光生 <i>Pseudomonas syringae</i> のタイプ III 分泌性エフェクター HopH1 は非宿主植物 <i>Solanum torvum</i> に過敏感反応を誘導する Kamrun Nahar¹・向原隆文²・田口富美子³・山本幹博^{1,3}・稲垣善茂^{1,3}・豊田和弘^{1,3}・能年義輝³・白石友紀^{1,2,3}・○一瀬勇規^{1,3} (¹岡大院自然科学・²岡山生物研・³岡大院環境生命科学)</p>

■第1日目午後

6月2日(月)	第2会場	第3会場
14:57	<p>207 クリーピングベントグラスから分離された新種 <i>Pythium</i> 属菌の発病に関する温度の影響 ○佐々木伸浩・堀田佳祐・鈴木良祐・早川敏広（(株)理研グリーン）</p>	<p>307 Comparative genomics and transcriptomics reveal <i>ATR4</i>, a downy mildew effector recognised by the cognate resistance gene <i>RPP4</i> ○Asai, S.^{1,2}, Furzer, O.J.², Cevik, V.², Ishaque, N.², Shirasu, K.¹, and Jones, J. D.G.² (¹RIKEN CSRS・²The Sainsbury Laboratory)</p>
15:09	<p>208 鉄コーティング湛水直播イネから分離される <i>Pythium</i> 属菌の病原性評価 ○東條元昭¹・藤川奈那央¹・松浦昌平² (¹大阪府大院生環・²広島県総研農技セ)</p>	<p>308 ウリ類炭疽病菌のエフェクター NISI は植物免疫抑制能を有する ○入枝泰樹・吉野香絵・福永 聡・高野義孝（京大院農）</p>
15:21	<p>209 LAMP 法による芝草ピシウム病菌の検出 ●松岡美里・永富史子・米山勝美・大里修一（明治大農）</p>	<p>309 ウリ類炭疽病菌の侵入前の形態分化プロセスにおけるエフェクター分泌機構の研究 ○池田恭子・入枝泰樹・高野義孝（京大院農）</p>
15:33	<p>210 メンブレン培養-LAMP 法による <i>Pythium aphanidermatum</i> のモニタリング ○景山幸二¹・石黒 泰¹・大坪佳代子¹・福田至朗²・高橋麗子²・渡辺秀樹³・村元靖典³・玉井大悟⁴・糠谷明⁴・須賀晴久⁵ (¹岐大流域研セ・²愛知農総試・³岐阜農技セ・⁴静岡大院農・⁵岐大生命セ)</p>	<p>310 オオムギうどんこ病菌の感染過程におけるエフェクターの分泌時期の解析 ●香口智宏・小林括平・西口正通・山岡直人・八丈野孝（愛媛大農）</p>
15:45	<p>211 等温増幅蛍光装置を用いた LAMP 法による <i>Pythium aphanidermatum</i> と <i>P. helicoides</i> の定量 ○石黒 泰¹・大坪佳代子¹・福田至朗²・高橋麗子²・鈴木幹彦³・影山智津子³・伊代住浩幸³・玉井大悟⁴・糠谷明⁴・須賀晴久⁵・景山幸二¹ (¹岐大流域研セ・²愛知県農総試・³静岡農林技研・⁴静岡大院農・⁵岐大生命セ)</p>	<p>311 座長 中馬いづみ イネもみ枯細菌病菌 III 型分泌機構を用いたイネいもち病菌病原性エフェクターの探索 ○加藤大明・平賀幸江・植村亜衣子・齋藤宏昌・寺内良平（岩手生工研）</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>407 過酸化水素応答を担う転写制御配列の予測と転写ネットワーク解析 ●日恵野綾香¹・Naznin Most. Hushna Ara²・百町満朗^{1,2}・澤木克亘¹・小山博之^{1,2}・樋口美栄子^{3,4}・花田耕介^{3,4}・松井 南⁴・山本義治^{1,2,4} (1 岐阜大連農・2 岐阜大 応生・3 九州工業大学若手フロンティア研究アカデミー・4 理研 CSRS)</p> <p>408 パイオインフォマティクスに基づく植物プロモーター解析 速水菜月¹・日恵野綾香¹・Naznin Hshuna Ara¹・百町満朗¹・時澤陸朋¹・小林佑理子¹・小山博之¹・井内 聖²・小林正智²・○山本義治^{1,3} (1 岐阜大学応用生物科学部・2 理研・BRC・3 理研・CSRS)</p> <p>409 シロイヌナズナ過敏反応におけるサリチル酸生合成の時空間的解析 ○別役重之^{1,2}・加藤新平³・福田裕穂² (1 JST さきがけ・2 東大院理・3 信大農)</p> <p>410 セオプロキンド処理によるウイルス抵抗性の低下機構の解明 山下雄大・○松浦英幸・犬飼 剛・増田 税・吉原照彦 (北大院農)</p>	<p>507 侵入警戒を要するポスピウイルスの種子伝染 ○松下陽介¹・津田新哉² (1 花き研・2 中央農研)</p> <p>508 Tomato planta macho viroid 及び Pepper chat fruit viroid のトマト及びペチュニアにおける種子並びに花粉伝染の可能性について ○柳澤広宣・志岐悠介・本蔵洋一 (横浜植物防疫所)</p> <p>509 アブスカウイロイド属ウイルスの草本性植物に対する病原性解析 ●藤林美里¹・赫 英紅¹・畑谷達児²・佐野輝男¹ (1 弘大農生・2 北大農)</p> <p>510 ジャガイモやせいもウイルス - ダリア株の可変及び右末端領域に生じた3塩基変異の分析 ●対馬大希¹・種田晃人²・佐野輝男¹ (1 弘大農生・2 弘大院理工)</p>	<p>607 イネの免疫応答における OsPUB44 の機能解析 ○石川和也¹・井上健人¹・山口公志¹・吉村智美¹・坂本一明¹・村口由一郎¹・北野詩織¹・小川まどか¹・津下誠治²・川崎 努¹ (1 近畿大・農・2 京府大院・生命環境)</p> <p>608 青枯病菌 <i>hrp</i> レギュロン調節遺伝子の宿主植物体内における発現解析 ○大西浩平¹・大石和矢²・木場章範²・曳地康史² (1 高知大遺伝子・2 高知大農)</p> <p>609 イネ白葉枯病菌の新規 LacI 型転写制御因子はグルコース存在下において <i>hrp</i> 遺伝子発現の負の制御に関する 大西紗矢佳¹・○伊川有美¹・真嶋綾子¹・庄司明子¹・古谷綾子²・津下誠治¹ (1 京府大院生命環境・2 茨大遺伝子)</p> <p>610 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>syringae</i> B728a の病害力制御因子 Vfr の標的遺伝子のクロマチン免疫沈降法による探索 ●小倉敬右・田口富美子・山本幹博・能年義輝・豊田和弘・稲垣善茂・一瀬勇規 (岡大院環境生命科学)</p>
<p>411 座長 中屋敷均 酸化マグネシウムによるトマト灰色かび病, ピーマン炭疽病, メロンうどんこ病の防除効果 ○鍛冶原寛¹・井上 興²・出穂美和¹・吉岡陸人¹・境 昭二³・伊藤真一⁴ (1 山口県農林総合技術センター・2 山口県庁・3 宇部マテリアルズ株式会社・4 山口大学)</p>	<p>511 座長 大貫正俊 トマト黄化葉巻ウイルス弱毒株選抜とその干渉効果 ○大崎秀樹・野見山孝司・関口博之・富岡啓介・竹原利明 (近中四農研)</p>	<p>611 座長 古谷綾子 ジャスモン酸応答性揮発性物質である linalool のイネ病害抵抗性における役割 ●谷ロしづく・細川 (篠永) 有美・玉置大介・山田祥子・秋光和也・五味剣二 (香川大農)</p>

■第1日目午後

6月2日(月)	第2会場	第3会場
15:57	<p>212 座長 佐藤 衛 <i>Pseudoidium pedaliacearum</i> によるゴマうどんこ病 ○佐藤幸生¹・前野早衣子²・堀江博道² (¹富山県立大学・²法政大植物医科)</p>	<p>312 いもち病菌 (<i>Magnaporthe oryzae</i>) 非病原力遺伝子 AVR-Pik と相互作用するイネ HMA domain タンパク質の機能解析 ○神崎洋之¹・齋藤宏昌¹・藤崎恒喜¹・小林光智衣¹・加藤大明¹・Banfield Mark²・Kamoun Sophien³・寺内良平¹ (¹岩手生工研・²John Innes Center, UK・³Sainsbury Laboratory, UK)</p>
16:09	<p>213 <i>Erysiphe quercicola</i> によるマンゴーうどんこ病 (新称) ○澤岬哲也¹・佐藤幸生²・新崎千江美¹・大城 篤¹ (¹沖縄農研セ・²富山県立大)</p>	<p>313 イネいもち病菌 AVR-Pik、AVR-Pii の分泌・宿主細胞内移行の解明 ○齋藤宏昌¹・吉田健太郎²・植村亜衣子¹・藤崎恒喜¹・小林光智衣¹・神崎洋之¹・寺内良平¹ (¹岩手生工研・²神戸大院農)</p>
16:21	<p>214 ピタヤ炭腐病菌の再同定および果実病徴に及ぼす温度の影響 ●玉城優太¹・田場 聡¹・伴さやか²・佐藤豊三³・深谷あづさ¹・澤岬哲也⁴・諸見里善一¹ (¹琉大農・²NBRC・³生物研・⁴沖縄農研)</p>	<p>314 Expression Analysis of AVR-Pia, Avirulence Gene of <i>Magnaporthe oryzae</i> ● Sornkom, W., Takeuchi, S., Asano, K., and Sone, T. (Agr. Hokkaido Univ.)</p>
16:33	<p>215 <i>Alternaria alternata</i> によるキュウリ黒斑病の発生と本病に対する各種薬剤の防除効果 ○楠 幹生¹・窪田昌春² (¹香川農試病害虫防除所・²野菜茶研)</p>	<p>315 イネいもち病菌の非病原性タンパク質 AVR-Pia タンパク質の多量体化と機能の関係 ●藤原志帆¹・樋口裕也¹・佐藤佑樹¹・尾瀬農之²・Thomas Kroj³・Nam-Soo Jwa⁴・浅野行蔵¹・曾根輝雄¹ (¹北大院農・²北大院薬・³INRA・⁴Sejong Univ.)</p>
16:45	<p>216 座長 門馬法明 ベビーリーフ用のコマツナ, テンサイおよびルッコラに発生した <i>Rhizoctonia solani</i> AG-4 による立枯性病害 ○関口博之¹・村上弘治¹・佐藤恵利華¹・富岡啓介¹・平子直行²・雨宮良太²・早川翔吾²・皆川 遊²・中田昌人²・百町満朗³・對馬誠也⁴ (¹農研機構・近中四農研・²正八つくば・³岐大応生・⁴農環研)</p>	<p>316 座長 芦澤武人 トランスポゾンを利用したイネいもち病抵抗性コシヒカリの選抜 ○高原浩之¹・古賀博則¹・前川雅彦² (¹石川県大生資環・²岡山大資源植物研)</p>
16:57	<p>217 ダイズ主要産地の圃場土からの黒根腐病菌の分離状況 ○越智 直¹・加藤雅康¹・青木政晴²・新良力也¹・島田信二¹ (¹農研機構・中央農研・²長野農試)</p>	<p>317 ムギ類とその近縁植物におけるイネいもち病菌抵抗性遺伝子の探索 ●角 圭人・中馬いづみ・土佐幸雄 (神戸大院農)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>412 酸化マグネシウムナノ粒子の抗菌性および植物抵抗性誘導作用 ●今田 潔¹・境 昭二²・鍛冶原寛³・田中秀平¹・伊藤真一¹ (1 山口大農・² 宇部マテリアルズ・³ 山口県農林総セ)</p> <p>413 カバノアナタケ菌 IO-U1 株に感染したシラカンバ幼植物体 No.8 におけるフェノール性物質の堆積およびペロオキシダーゼ活性の組織観察 ●宮内 優¹・吉永 新²・上高原浩²・高島有哉¹・石栗 太¹・飯塚和也¹・横田信三¹ (1 宇都宮大農・² 京大院農)</p> <p>414 アゼライン酸処理をしたシラカンバ幼植物体 No.8 の各器官に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析 ●市川拓朗・高島有哉・石栗 太・飯塚和也・横田信三 (宇都宮大農)</p> <p>415 有機栽培イネにおけるいもち病菌接種後の防御関連遺伝子の発現解析 ○長谷 修¹・安藤 正²・小林 隆¹ (1 山形大農・² 山形農総研セ水田)</p>	<p>512 非虫媒性トマト黄化葉巻病ウイルス分離株を用いたトマト黄化葉巻病防除の可能性 ○森山美穂¹・古家 忠¹・行徳 裕² (1 熊本農研セ・² 熊本県農林水産部)</p> <p>513 非虫媒性トマト黄化葉巻ウイルス 17G 株の非虫媒性に関するアミノ酸の特定 ●高野 梓¹・井上登志郎²・新子泰規²・佐山春樹²・斎藤 渉²・村井保¹・西川尚志¹・夏秋知英¹ (1 宇都宮大農・² キューマン)</p> <p>514 非虫媒性トマト黄化葉巻ウイルス 17G 株における遺伝子レベルでの安定性 ○王 蔚芹¹・井上登志郎²・新子泰規²・佐山春樹²・斎藤 渉²・西川尚志¹・夏秋知英¹ (1 宇都宮大農・² キューマン)</p> <p>515 トマト黄化葉巻病抵抗性品種における土着天敵タバコカスミカメを利用したタバココナジラミ及びトマト黄化葉巻病の防除 ○影山智津子・土田祐大・土井 誠・伊代住浩幸・鈴木幹彦 (静岡農林技研)</p>	<p>612 イネのジャスモン酸シグナル伝達機構に関する OsNINJA1 の解析 ●田中 涼・玉置大介・宍戸穂高・秋光和也・五味剣二 (香川大農)</p> <p>613 イネにおけるジャスモン酸応答性揮発性物質 (E,E)-2,4-heptadienal の病理学的役割の解析 ●田中啓一朗・谷口しづく・吉富佳代・秋光和也・五味剣二 (香川大農)</p> <p>614 トマト植物の細胞間隙に接する細胞表面で青枯病菌はバイオフィルムを形成する ●森 友花¹・井上加奈子²・池田健一²・中屋敷均²・尾上孝利³・木場章範¹・大西浩平⁴・曳地康史¹ (1 高知大農・² 神戸大院農・³ 太成学院大看護・⁴ 高知大総研セ)</p> <p>615 Ralfuranone 類は青枯病菌のバイオフィルム形成に関与する ○甲斐建次¹・大西秀幸¹・森 友花²・石川詩歩²・木場章範²・大西浩平³・曳地康史² (1 阪府大院・生命環境・² 高知大・農・³ 高知大・総研セ)</p>
<p>416 座長 井上康宏 ネギ根圏から分離した <i>Burkholderia</i> 属菌株によるピオケリンの産生 ●田中千尋¹・五十嵐康弘²・鈴木陽子¹・西岡友樹¹・福田隆雄²・須賀晴久³・百町満朗¹・清水将文¹ (1 岐大院応生・² 富山県大生工研セ・³ 岐大生命セ)</p> <p>417 ネギ属根圏の細菌叢の網羅解析と根圏由来 <i>Pseudomonas</i> 属菌のキュウリつる割病抑制活性 ●西岡友樹¹・鈴木陽子¹・小林一成²・小林裕子²・須賀晴久³・百町満朗¹・清水将文¹ (1 岐大院応生・² 三重大・地域イノベ/生命セ・³ 岐大生命セ)</p>	<p>516 【講演取り下げ】</p> <p>517 座長 中原健二 ダイアンソウウイルスのゲノム RNA 複製における宿主 Phospholipase D の機能解析 ○兵頭 究・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京大院農)</p>	<p>616 座長 舟久保太一 水稻種子伝染性病害に対する高温加湿空気の防除効果 (第2報) ○宮川典子¹・坂田智子²・松尾多恵子²・前田勝行¹・富士 真¹ (1 JA 全農営技セ・² インコテックジャパン)</p> <p>617 オオムギ黒節病に対して防除効果を有する種子消毒法のスクリーニング ○森 充隆¹・井上康宏² (1 香川農試・² 農研機構・中央農研)</p>

■第1日目午後

6月2日(月)	第2会場	第3会場
17:09	<p>218 ダイズ黒根腐病菌 (<i>Calonectria ilicicola</i>) の <i>nit</i> 変異株の作出 ○黒田智久¹・竹原利明²・石川浩司¹ (¹新潟農総研作物研・²農研機構・近 中四農研)</p>	<p>318 イネのいもち病量的抵抗性遺伝子の集 積が葉いもち発病抑制におよぼす影響 ○安田伸子¹・光永貴之¹・林 敬子¹・ 小泉信三²・藤田佳克³ (¹農研機構・ 中央農研・²JICA 筑波・³日大生物資源)</p>
17:21	<p>219 幼苗検定による土壌中のウリ類ホモプ シス根腐病菌の密度および圃場におけ る発病の推定 ○横山とも子・中田菜々子・牛尾進吾 (千葉農林総研)</p>	<p>319 陸稲品種「嘉平」由来いもち病抵抗性 遺伝子 <i>Pikahei-1 (t)</i> の単離と特性解析 ○林 長生¹・徐 鑫²・王 春台²・ 福岡修一¹・川崎信二¹・高辻博志¹・ 姜 昌杰¹ (¹生物研・²中南民族大学・ 生科院)</p>
17:33	<p>220 ウリ類ホモプシス根腐病菌汚染土壌に おける <i>real-time PCR</i> による本菌の定 量値とキュウリ幼苗検定法による発病 度との関係 ○中田菜々子¹・横山とも子¹・吉田 重信²・牛尾進吾¹ (¹千葉農林総研・ ²農環研)</p>	<p>320 イネ品種「ひとめぼれ」と「蒙古稲」 間に認められるイネいもち病菌感染性 決定因子の遺伝学的解析 ○藤崎恒喜¹・阿部善子¹・高木宏樹¹・ 阿部 陽¹・小林光智衣¹・齋藤宏昌¹・ 中馬いづみ²・寺岡 徹³・寺内良平¹ (¹岩手生工研・²神戸大・³東京農工大)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>418 温水処理による果樹類白紋羽病菌衰退現象における細菌群集と細菌機能の変動解析 山田博之¹・佐々木厚子²・岩波靖彦³・須崎浩一⁴・中村 仁²・○久我ゆかり¹ (1 広島大院総科・2 農研機構果樹研・3 長野南信試・4 果樹研ブドウ・カキ)</p> <p>419 バイオエタノール発酵産物を用いた生物的土壌消毒過程における土壌微生物相の解析 ○堀田光生・北本宏子 ((独) 農業環境技術研究所)</p> <p>420 国内産バイオコントロール細菌 <i>Pseudomonas protegens</i> の全ゲノム解析 ○竹内香純¹・野田なほみ¹・染谷信孝² (1 生物研・2 農研機構・北農研)</p>	<p>518 RNA 干渉法を用いたテヌウイルスに対する抵抗性イネの作出 ○笹谷孝英¹・雑賀啓明²・青木秀之³・長岡 (中蘭) 栄子⁴・一木 (植原) 珠樹²・土岐精一²・斎藤浩二³・矢頭治³ (1 農研機構・九沖農研・2 生物研・3 農研機構・中央農研・4 農研機構・果樹研)</p> <p>519 2 分節マイナス鎖 RNA ウィルスであるランエそ斑紋ウイルス (OFV) の mRNA および leader RNA の特性 ○近藤秀樹・丸山和之・千葉壮太郎・鈴木信弘 (岡山大・植物研)</p>	<p>618 コムギ黒節病の種子消毒 ○酒井和彦¹・庄司俊彦¹・井上康宏² (1 埼玉農総研・2 農研機構・中央農研)</p> <p>619 カワムギにおけるオオムギ黒節病の種子消毒法 ○青木一美¹・横須賀知之¹・井上康宏² (1 茨城県農業総合センター農業研究所・2 農研機構・中央農研)</p> <p>620 アケビ斑点細菌病に対する各種薬剤の効果 ○後藤新一¹・佐藤健治²・阿部篤智³・本田浩央³ (1 山形農総セ園試・2 山形防除所・3 山形県庁)</p>

■第2日目午前

6月3日(火)	第2会場	第3会場
9:00	<p>221 座長 甲把(安達)理恵 クオタラリア疫病(新称)を起因する <i>Phytophthora drechsleri</i> ○田村美佳¹・築尾嘉章¹・守川俊幸¹・ 景山幸二²・東條元昭³(¹富山県農林 水産総合技術センター農業研究所・ ²岐大流域研セ・³大阪府大院生環)</p>	<p>321 座長 荒川征夫 イネばか苗病の本田移植後の発病推移 とイブコナゾールによる種子消毒効果 ○堅石秀明(株式会社クレハ)</p>
9:12	<p>222 北日本における <i>Phytophthora asparagi</i> によるアスパラガス疫病の発生 ○児玉不二雄¹・古屋廣光²・岡田 貴³・園田高広¹・河村倫希¹・藤井直 哉⁴・戸田 武²・藤 晋一²(¹酪農 学園大・²秋田県立大・³ホクサン・ ⁴秋田農試)</p>	<p>322 非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> W3 およ び W5 の花器処理によるイネばか苗病 発病抑制効果 ●徳永智美¹・加藤亮宏¹・田中 淳¹・ 倉内賢一²・鈴木智貴³・小松 健¹・ 寺岡 徹¹・有江 力¹(¹農工大院農・ ²青森産技セ・³宮城古川農試)</p>
9:24	<p>223 A new species of the genus <i>Phytophthora</i> causing stem blight of lettuce in Japan ○Rahman, M.Z.¹, Uematsu, S.², Kanto, T.³, Kusunoki, M.⁴, Ishiguro, Y.⁵, Suga, H.⁶, and Kageyama, K.⁵(¹The Unitd. Grad. School of Agril. Sc., Gifu Univ.・ ²Southn. Hortl. Inst., Chiba Prefl. Agri. and Forestry Res. Cent.・³Hyogo Prefecl. Agri., Forestry and Fisheries Tech. Cent.・ ⁴Kagawa Prefecl. Agril. Experiment Sta.・ ⁵River Basin Research Center, Gifu Univ.・ ⁶Life Science Research Centre, Gifu Univ.)</p>	<p>323 イネばか苗病菌と生物防除資材候補菌 のイネ穎花および種もみにおける動態 田中 淳・加藤亮宏・徳永智美・寺岡 徹・小松 健・○有江 力(農工大院 農)</p>
9:36	<p>224 <i>Peronospora statices</i> によるスターチス べと病(新称) ○西脇由恵¹・佐藤 衛²・白井佳代³・ 小林佐代⁴(¹道総研花野セ〈現 道総 研中央農試〉・²農研機構花き研・³道 総研花野セ・⁴北海道空知農改)</p>	<p>324 低温焼成籾殻灰の施用によるイネのケ イ酸含量の変化といもち病発病程度へ の影響 ○菅原幸哉¹・小林 隆²・関矢博幸¹・ 兼松誠司¹・中山壮一¹(¹農研機構・ 東北農研・²山形大農)</p>
9:48	<p>225 <i>Pythium aphanidermatum</i> によるショ クヨウホオズキ立枯病(新称) ○三宅律幸¹・永井裕史¹・松崎聖史¹・ 福田至朗¹・高橋麗子¹・景山幸二² (¹愛知農総試・²岐大流域研セ)</p>	<p>325 【講演取り下げ】</p>
10:00	<p>226 座長 植松清次 <i>Fusarium</i> 属の分化型表記における組替 え元の基底名の著者名の扱いについて ○青木孝之(生物研)</p>	<p>326 座長 中島千晴 ナシ白紋羽病菌の雑草根との共生と果 樹園内伝播への関与 白銀隼人・○宍戸雅宏(千葉大院園)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>421 座長 桃井千巳 紫外光(UV-B)照射によるバラうど んこ病の発病抑制効果—現地ガラスハ ウスにおける複数年の実証 ○神頭武嗣¹・植村一郎¹・山中正仁¹・ 石渡正紀²・山田 真²・佐藤 衛³・ 久松 完³ (¹兵庫農技総セ・²パナソ ニック・³花き研)</p>	<p>521 座長 佐野義孝 <i>Ranunculus mild mosaic virus</i> の組換え 外被タンパク質に対する抗血清の作成 ○細川秀子¹・廣田美佐子¹・中村琢 也¹・河野亜希子²・菅野善明¹ (¹南 九大環・²宮崎総農試)</p>	<p>621 座長 木場章範 シロイヌナズナ <i>MEKK1</i> 遺伝子の欠損 により誘導される防御反応表現型に関 する解析 ●高木桃子¹・市村和也¹・Alexander Graf²・David Greenshields³・高木宏樹⁴・ 篠崎一雄³・寺内良平⁴・白須 賢³ (¹香大院農・²センズベリーラボラト リー・³理研 CSRS・⁴岩手生工研)</p>
<p>422 Red Light-Induced Resistance to Brown Spot Disease Caused by <i>Bipolaris oryzae</i> in Rice ○Parada, R.Y., Mon-nai, W., Ueno, M., Kihara, J., and Arase, S. (Shimane Univ. Fac. Life and Env. Sci.)</p>	<p>522 Molecular cloning and nucleotide sequence of Rice necrosis mosaic virus, a fungal transmitted Bymovirus, genomic RNA ●Wagh, G.S.¹, Kobayashi, K.¹, Yaeno, T.¹, Yamaoka, N.¹, Masuta, C.², and Nishiguchi, M.¹ (¹Fac. Agr., Ehime Univ.・ ²Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ.)</p>	<p>622 MEK2^{DD} 誘導性 HR 様細胞死を抑制す る <i>Ralstonia solanacearum</i> エフェクター clone10 の解析 ●佐藤幹也¹・田口義人¹・吉岡博文²・ 秋光和也¹・市村和也¹ (¹香大院農・ ²名大院生農)</p>
<p>423 キュウリの褐斑病及び炭疽病に対する 光誘導抵抗性 ●松岡拓実・パラダ ロクサナ・上野 誠・木原淳一・荒瀬 榮 (島根大・生 資)</p>	<p>523 ミャンマーおよびインドネシア産ニン ニクからのウイルスの検出と同定 ●坂本 彩¹・Nyant Myo²・Suastika Gede³・夏秋啓子¹ (¹東京農大国際・ ²農業灌漑省・³ボゴール農大)</p>	<p>623 MEK2-SIPK, WIPK 経路を抑制する青 枯病菌エフェクターの解析 田口義人¹・吉岡博文²・田中信和³・ 秋光和也¹・市村和也¹ (¹香大院農・ ²名大院生農・³広大自科研支援開発セ)</p>
<p>424 超音波を利用した植物の病害抵抗性誘 導に関する研究 ●川上大地¹・三浦重典²・吉田隆延³・ 水上智道³・田中庸之³・江波義成⁴・ 有元倫子⁴・寺岡 徹¹・小松 健¹・ 有江 力¹ (¹農工大院農・²農研機構 中央農研・³農研機構生研セ・⁴滋賀 農技セ)</p>	<p>524 日本産ジンチョウゲSウイルスの全 ゲノム配列決定 ○藤田尚子¹・吉田哲也¹・北沢優悟¹・ 煉谷裕太郎¹・小松 健^{1,2}・山次康 幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²農工 大院農)</p>	<p>624 サリチル酸に依存した情報伝達を阻害 する低分子化合物の同定 ○石濱伸明¹・能年義輝²・崔 勝媛¹・ Ivana Saska¹・野村有子¹・中神弘史¹・ 村山和隆³・白水美香子⁴・斎藤民雄¹・ 長田裕之¹・白須 賢¹ (¹理研 CSRS・²岡大院農・³東北大院医工・ ⁴理研 CLST)</p>
<p>425 超音波照射によるイチゴうどんこ病に 対する発病抑制効果 ○有元倫子¹・江波義成¹・水上智道²・ 田中庸之²・吉田隆延²・川上大地³・ 有江 力³ (¹滋賀農技セ・²農研機構 生研セ・³農工大院農)</p>	<p>525 ウイルス RNA の In Vitro 転写系を利用 したリンゴ奇形果病と輪状さび果病 樹からのウイルスの単離 ●岸上隆介¹・山岸紀子¹・八重樫元²・ 伊藤 伝²・吉川信幸¹ (¹岩手大農・ ²果樹研リンゴ)</p>	<p>625 シロイヌナズナ Sirtuin 1 の細胞死制 御における機能解析 ○田村勝徳¹・千葉恵子²・足立雄悟² (¹岡山生物研・²東大分生研)</p>
<p>426 座長 清水将文 ムギ類葉面から分離された糸状菌から の新規の揮発性抗菌物質生産株の選抜 ○小坂橋基夫・吉田重信・對馬誠也 (農 環研)</p>	<p>526 座長 磯貝雅道 ブドウとカキが保毒する2種の新クロ ステロウイルスとユニバーサルプライ マーを用いた RT-PCR による検出 ○伊藤隆男¹・中畝良二²・須崎浩一¹・ 佐藤明彦¹ (¹果樹研ブドウカキ・²果 樹研)</p>	<p>626 座長 吉田重信 ムギ類黒節病菌 <i>Pseudomonas syringae</i> <i>pv. syringae</i> 検出用プライマーの開発 ○吉岡陸人¹・上松 寛²・瀧川雄一³・ 鍛冶原寛¹・井上康宏² (¹山口農林総 セ・²農研機構中央農研・³静岡大院 創造)</p>

■第2日目午前

6月3日(火)	第2会場	第3会場
10:12	<p>227 高緯度北極域・スピッツベルゲン島で発生する新種の黒紋病菌 <i>Rhytisma polaris</i> の分類学的特徴と生活史 ○増本翔太^{1,3}・東條元昭²・内田雅己¹・伊村 智¹ (1 国立極地研究所・² 大阪府大生環・³ 総合研究大学院大学)</p>	<p>327 腐朽材組織の除去がナシ萎縮病の病徴発現に与える影響 ○金子洋平・塩田あづさ・鈴木達哉・鈴木 健・幸由利香・牛尾進吾 (千葉農林総研)</p>
10:24	<p>228 A new ambrosia beetle-fungus complex associated with mortality of <i>Carpinus tschonoskii</i> in South Korea ○ Kim, KH., and Park, J.-H. (Korea Forest Research Institute)</p>	<p>328 ナシ黒星病菌子のう胞子の飛散消長と飛散時期に対応した防除の有効性 (第2報) ○草野尚雄¹・小河原孝司²・椎葉岳彦³・渡辺賢太¹・伊藤瑞穂¹・鹿島哲郎¹・富田恭範¹ (1 茨城農総セ園研・² 茨城農総セ・³ 茨城防除所)</p>
10:36	<p>229 座長 齋藤憲一郎 イネいもち病菌の <i>AVR-Pik</i> の変異機構の解析 ●船引麻衣¹・竹内紗央里¹・中馬いづみ²・浅野行蔵¹・曾根輝雄¹ (1 北大院農・² 神戸大農)</p>	<p>329 株枯病菌を接種したイチジクにおける病徴の進展 (1) 通水障害と外部病徴 ○森田剛成¹・軸丸祥大¹・山岡裕一²・黒田慶子³ (1 広島総研農技セ・² 筑波大・生命環境・³ 神大院農)</p>
10:48	<p>230 イネいもち病菌 <i>Srs2</i> DNA ヘリカーゼの単離と機能解析 ●小川哲央¹・荒添貴之¹・桑田 茂¹・草野好司^{1,2}・大里修一¹ (1 明治大農・² 京都工繊大遺伝資源キュレーター)</p>	<p>330 株枯病菌を接種したイチジクにおける病徴の進展 (2) 宿主の防御反応に起因する内部病徴と通水障害 ○黒田慶子¹・隅田卓月¹・梶井千永¹・森田剛成² (1 神大院農・² 広島総研農技セ)</p>
11:00	<p>231 イネいもち病菌における <i>MoNbs1</i> の機能解析 ●馬場公平¹・佐々木健悟¹・曾根輝雄²・奈良 恵¹・鎌倉高志¹ (1 東理大理工応生鎌倉研・² 北大院農研応用菌学研)</p>	<p>331 座長 戸田 武 地球温暖化によるイネ紋枯病の発生変動予測 ○小林 隆¹・菅野洋光²・西森基貴³・神田英司⁴・兼松誠司²・長谷 修¹ (1 山形大農・² 農研機構・東北農研・³ 農環研・⁴ 農研機構・中央農研)</p>
11:12	<p>232 イネいもち病菌の DNA 組換え修復遺伝子 <i>Mhm11</i>, <i>Rhm50</i>, <i>Nhm1</i> の解析 ○阿部 歩・浅野行蔵・曾根輝雄 (北大院農)</p>	<p>332 弱病原性 2 核 <i>Rhizoctonia</i> 菌の初接種後育成イネ上における紋枯病発生の減少 ○金子秀平・田島由梨・後藤 豊・林秀策・長谷山俊之・荒川征夫・稲垣公治 (名城大農)</p>
11:24	<p>233 イネいもち病防除法の開発に向けたタンパク質間相互作用阻害物質のスクリーニング系の構築 ●中山 航・阿部 歩・浅野行蔵・曾根輝雄 (北大院農)</p>	<p>333 共分散分析によるイネ紋枯病被害の年次・地域間差の解析 ○井上博喜¹・宮坂 篤¹・川上 顕¹・笹谷孝英¹・鈴木智貴²・宮野法近²・平八重一之¹ (1 農研機構・九州研・² 宮城古川農試)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>427 ブナシメジ (<i>Hypsizygus marmoreus</i>) が生産する植物病原糸状菌に有効な揮発性抗菌物質 ○岡久美子¹・坂口七瀬¹・石原 亨¹・西野茂樹²・中桐 昭¹・前川二郎¹・尾谷 浩¹(¹鳥取大農・²日曹小田原研)</p> <p>428 揮発性抗菌物質産生 <i>Bacillus pumilus</i> TM-R 株によるハウスミカンすす斑病の発病抑制 ○田代暢哉¹・田中一成²・正司和之¹・龍田典子²・染谷 孝²(¹佐賀上場営農セ・²佐賀大農)</p> <p>429 エンバク根からのアベナシンの放出 ○鶴嶋 鉄¹・Sam T. Mugford²・Anne E. Osbourn²(¹阪南大・²John Innes Centre)</p> <p>430 <i>Bacillus</i> 属由来の環状リポペプチド iturin 及び surfactin の抗菌活性 ●川島卓也¹・井出菜美子¹・橋本季和¹・篠原弘亮²・横田健治¹(¹東農大院農化・²東農大農)</p>	<p>527 シソモザイク病(新称)を引き起こすシソモザイクウイルス(仮称)のゲノム構造および媒介生物 ○久保田健嗣¹・宇杉富雄¹・富高保弘¹・下元祥史²・竹内繁治²・広瀬拓也²・上遠野富士夫³・津田新哉¹(¹中央農研・²高知農技セ・³法政大生命科学)</p> <p>528 ダイズ野生種, ツルマメにおける2種ウイルスの発生確認 ○大貫正俊¹・酒井淳一¹・水谷信夫¹・榊原充隆²・菊地淳志³・安田耕司⁴(¹九沖農研・²東北農研・³近中四農研・⁴農環研)</p> <p>529 イチジクから検出される Fig leaf mottle-associated virus 1, Fig leaf mottle-associated virus 2 および Fig badnavirus-1 について ○草野成夫¹・原田洋司²・牛島孝策¹・村本晃司¹(¹福岡農総試果樹苗木・²福岡県経営技術支援課)</p> <p>530 座長 佐々木信光 <i>Brassica rapa</i> における抗ウイルス反応としてのアスコルビン酸蓄積の誘導メカニズム ●十川聡子・藤原綾香・松浦英幸・犬飼 剛・増田 税(北大院農)</p>	<p>627 マルチプレックス PCR によるキウイフルーツかいよう病菌の系統の迅速識別 ○清水伸一¹・三好孝典²・篠崎 毅¹・毛利真寿代¹・楠元智子²・澤田宏之³(¹愛媛果樹研セ・²愛媛県庁・³生物研)</p> <p>628 キウイフルーツかいよう病菌 (<i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidiae</i>) の Psa1 系統に対する‘ヘイワード’および‘Hort16A’の抵抗性の比較 ○三好孝典¹・清水伸一²・篠崎 毅²・澤田宏之³(¹愛媛県庁・²愛媛果樹研セ・³生物研)</p> <p>629 Cycleave PCR 法を用いたウリ科野菜果実汚斑細菌病菌とイネ科作物褐条病菌の識別法の開発 ○大崎康平¹・片山佳那子²・永富靖章¹・佐藤征弥³(¹株ファスマック・²徳島大・³総科・³徳島大・院・SAS)</p> <p>630 トウモロコシ萎凋細菌病菌罹病葉からの直接検出法の比較 ○上松 寛・井上康宏・大藤泰雄(農研機構・中央農研)</p>
<p>431 座長 三澤知央 ホウレンソウ水耕栽培における <i>Pythium aphanidermatum</i> の発生に及ぼす培養液の短時間熱処理の影響 ●高瀬元希¹・高木康博²・和田光生¹・東條元昭¹(¹大阪府大院生環・²日本パルスモーター(株))</p> <p>432 水耕栽培で発生するネギ根腐病に対する亜リン酸肥料の影響 ○清水佐知子・延安弘行(広島総研農技セ)</p> <p>433 有機質肥料活用型養液栽培からの分離菌株が <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>lactucae</i> に及ぼす影響 藤原和樹¹・染谷信孝⁶・飯田祐一郎¹・安藤晃規²・大西 純¹・小川 順²・加藤康夫³・宮本憲二⁴・高野雅夫⁵・寺見文宏¹・○篠原 信¹(¹農研機構・野菜茶研・²京都大学・³富山県立大学・⁴慶應義塾大学・⁵名古屋大学・⁶農研機構・北農研)</p>	<p>531 アスパラガスウイルスの茎頂分裂組織への感染およびビタミンC処理によるウイルスフリー化の向上 松尾典之・川村竜介・○志村華子・鈴木 卓・増田 税(北大院農)</p> <p>532 混合感染における植物ウイルス間の相互作用に関する分子機構の解析 ●小田裕太¹・竹下 稔¹・高橋英樹²・古屋成人¹・土屋健一¹(¹九大院農・²東北大院農)</p> <p>533 BTH 処理によるキュウリモザイクウイルス抵抗性と RNA サイレncing 関連因子のプライミングの解析 ○安藤杉尋^{1,2}・Michal Jaskiewicz²・高橋英樹¹・Uwe Conrath²(¹東北大院農・²アーヘン工科大)</p>	<p>631 座長 新村昭憲 RIPA 法を用いた <i>Ralstonia solanaceum</i> の土壌からの簡易菌密度推定技術 ○松浦克成・岩本 豊・相野公孝(兵庫県立農林水産技術総合センター)</p> <p>632 MPN-PCR 法によるナス青枯病自然発生圃場における菌密度定量事例 ○古澤安紀子¹・池田健太郎¹・柴田聡¹・井上康宏²・中保一浩²(¹群馬農技セ・²農研機構・中央農研)</p> <p>633 ジャガイモ根系内での存在位置が異なる土壌における <i>necl1</i> 遺伝子数の推移 ○吉田穂積¹・森谷美幸¹・鹿島誠一郎¹・百田孝福¹・大塚美幸¹・小山修²(¹東農大生産・²日鉄住金環境エッジ)</p>

■第2日目午前

6月3日(火)	第2会場	第3会場
11:36		<p>334 宮城県における複数品種の紋枯病に対する要防除水準 ○鈴木智貴¹・大場淳司²・宮野法近¹・辻 英明³ (¹宮城古川農試・²宮城県農林水産部・³宮城農園研)</p>
11:48		<p>335 Fusarium ear rot of maize: Fumonisin-producing Fusarium species and host resistance ○Pascual, C.B., Barcos, A.K.S., Mandap, J.A.L., and Ocampo, E.T.M. (UPLB)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>434 水耕栽培で発生する植物病原細菌に対する二酸化塩素の殺菌・静菌作用 ○畔上耕児¹・窪田昌春¹・柏原孝行²・中野明正¹ (¹農研機構・野菜茶研・²日本カーリット)</p> <p>435 ポット内付着物によるイチゴ萎黄病の伝染と消毒法 ○稲田 稔 (佐賀農研)</p>	<p>534 アシベンゾラル S メチル (ASM) による宿主抵抗性誘導下でのキュウリモザイクウイルス (CMV) の感染動態の解析 ●兵頭紋佳・竹下 稔・古屋成人・土屋健一 (九大院農)</p>	<p>634 Modified Tween 培地による <i>Xanthomonas arboricola</i> pv. <i>pruni</i> の検出 ○間佐古将則¹・森本涼子²・木村学¹・瀧川雄一³ (¹和歌山果試かき・もも研・²和歌山県食品流通課・³静岡大院創造)</p> <p>635 ブドウつる割細菌病菌分離用培地の作製 ○須崎浩一¹・佐藤 裕² (¹農研機構・果樹研ブドウカキ・²秋田果樹試)</p>

■第2日目午後

6月3日(火)	第2会場	第3会場
13:00	<p>236 座長 鳴坂義弘 植物免疫におけるS型陰イオンチャンネルの役割 来須孝光^{1,2,3}・八木智華子¹・齊藤克典¹・堀越苑子¹・別役重之⁴・花俣繁¹・北畑信隆¹・祢宜淳太郎⁵・射場厚⁵・〇朽津和幸^{1,2} (1東京理科大院理工応用生物科学・2東京理科大総研・3東京工科大応用生物・4東京大院理・5九州大院理)</p>	<p>336 座長 月星隆雄 ISSR マーカーおよびミトコンドリアDNA塩基配列による <i>Microdochium nivale</i> var. <i>majus</i> の遺伝的集団構造の解析 ●林 優作¹・小澤 徹²・相内大吾³・小池正徳³・秋野聖之¹・近藤則夫¹ (1北大院農・2道総研十勝農試・3帯広畜大)</p>
13:12	<p>237 希少糖の植物の作用(32):D-Allose作用におけるイネHXKによるD-alloseリン酸化の役割 ●松平一志¹・加野彰人¹・福元健志¹・大谷耕平¹・何森 健¹・田島茂行¹・小原敏明²・重松由夫²・河西史人²・石田 豊³・市村和也¹・五味剣二¹・秋光和也¹ (1香川大農・2三井化学アグロ・3四国総合研)</p>	<p>337 クローナルに増殖したと考えられる三重県のMBI-D剤耐性イネいもち病菌株集団から観察されたMAGGY-DNAフィンガープリントパターンの変異 ●宮司貴浩¹・池上裕美子¹・鈴木啓史²・中馬いづみ³・土佐幸雄³・草場基章¹ (1佐賀大農・2三重農研・3神戸大院農)</p>
13:24	<p>238 ニコチンアミドモノヌクレオチドによる植物の病害抵抗性誘導の解析 〇三輪晃敬¹・澤田有司²・平井優美²・佐藤和広³・西内 巧¹ (1金大・学際センター・2理研・環境資源科学研究センター・3岡大・植資研)</p>	<p>338 イネ紋枯病菌のマイクロサテライト遺伝型解析で検出された日本および韓国個体群間の遺伝子流動 ●牧田結衣¹・長屋美佳¹・竹内千佳¹・稲垣公治¹・Paulo C. Ceresini²・Bruce A. McDonald³・荒川征夫¹ (1名城大農・2UNESP, Brazil・3ETH Zürich, Switzerland)</p>
13:36	<p>239 A PAMP elicitor from <i>Phytophthora infestans</i> induces active oxygen species and the hypersensitive response in potato 〇Furuichi, N.¹, Yokokawa, K.², Okamura, H.², and Ohta, M.² (1Center of Excellence, Tech. Univ. Dresden, Germany・2Grad. Sch. Sci. and Tech., Niigata Univ.)</p>	<p>339 Characterization of <i>Trichoderma</i> spp. isolated in Ecuador and their potential for biocontrol agents ●Galarza, L.¹, Akagi, Y.², Takao, K.¹, Kim, C.S.³, Maekawa, N.³, Peralta, E.⁴, Santos, E.⁴, and Kodama, M.² (1UGSAS, Tottori Univ.・2Fac. Agric., Tottori Univ.・3FMRR, Tottori Univ.・4CIBE ESPOL)</p>
13:48	<p>240 ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須なSAR8.2mについての解析 ●近藤洋平・宮崎江里・小嶋博樹・水谷安希・柴田裕介・川北一人・竹本大吾 (名大院生農)</p>	<p>340 福島県で発生するシンテッポウユリの連作障害の主因解明と地下部糸状菌相解析の有用性 ●羽根坂駿¹・宍戸邦明²・戸田 武¹・藤 晋一¹・古屋廣光¹ (1秋田県大・2福島農総セ)</p>
14:00	<p>241 座長 白須 賢 CERK1と相互作用するE3ユビキチンリガーゼの機能解析 〇出崎能丈・十文字純一・竹田 潤・鈴木丸陽・中島正登・高橋昌平・八嶋航平・須藤健吉・賀来華江・澁谷直人 (明治大・農・生命科学)</p>	<p>341 異なる薬剤散布回数下でのコムギ出穂期の気象条件と赤かび病の発生ならびにデオキシニバレノール汚染との関係 〇宮野法近¹・辻 英明²・大場淳司³・鈴木智貴¹・佐藤直樹¹ (1宮城県古川農業試験場・2宮城県農業・園芸総合研究所・3宮城県農林水産部農業振興課)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>436 座長 畔上耕児 【講演取り下げ】</p>	<p>536 座長 石橋和大 NB-LRR型キュウリモザイクウイルス抵抗性タンパク質の蓄積を制御するイントロン配列の役割 ○佐藤有希代・安藤杉尋・高橋英樹（東北大院農）</p>	<p>636 座長 篠原弘亮 イネもみ枯細菌病菌の刈り株、初における圃場での越冬 ○永島 進・磯田 淳・山本 淳（島根農技セ）</p>
<p>437 メロンつる割病の発病抑制および生長促進効果を同時に発現する育苗方法 ○今崎伊織・門田育生（農研機構・東北農研）</p>	<p>537 キュウリモザイクウイルス抵抗性遺伝子RCY1に対するウイルス非病原性因子の機能ドメイン解析 ●安藤由起・安藤杉尋・高橋英樹（東北大院農）</p>	<p>637 病徴を示すカンキツグリーンング病感染タンカン樹と無病徴感染樹における病原細菌の樹体内分布 ○福元智博¹・上之蘭茂¹・尾川宜広¹・松本大亮²・宮路克彦¹・中村正幸²・岩井 久²（¹鹿児島農総合セ果樹・²鹿児島大農）</p>
<p>438 シクラメンピシウム根腐病の発生に及ぼす亜リン酸肥料の効果 ○舟久保太一・横内京子・國友義博（山梨総農技セ）</p>	<p>538 キュウリモザイクウイルス・アブラナ科べと病菌複合抵抗性を支配するとRCY1/RPP8遺伝子座の組換えと病原体応答 ○高橋英樹・安藤杉尋（東北大院農）</p>	<p>638 モモせん孔細菌の全ゲノム解読及び遺伝的多様性の再評価 ○藤川貴史・長岡（中蘭）栄子・宮田伸一・岩波 徹（農研機構・果樹研究所）</p>
<p>439 飼料米生産における後期追肥によるいもち病発病抑制 ○鬼頭英樹・善林 薫・中島敏彦（農研機構・東北農研）</p>	<p>539 トバモウイルス粒子長桿化変異体のL抵抗性タンパク質による認識の回避 ○関根健太郎¹・富田麗子¹・厚見剛¹・小林括平²（¹岩手生工研・²愛媛大農）</p>	<p>639 徳之島に発生しているカンキツグリーンング病原細菌のSSRによる分子系統解析 ○加藤 寛・宮田伸一・岩波 徹（農研機構・果樹研）</p>
<p>440 座長 窪田昌春 埼玉県におけるユズかきよう性虎斑症の発生状況とその対策 ○宇賀博之¹・立石勝朗²・小久保武男³・前島秀明⁴・松葉口修²・柴田貴子²・須田昭雄⁴・長岡（中蘭）栄子⁵・宮田伸一⁵・岩波 徹⁵（¹埼玉農総研・²埼玉川越農林・³元埼玉県庁・⁴埼玉農業支援課・⁵農研機構・果樹研）</p>	<p>540 N'抵抗性はトウガラシ微斑ウイルスに対して永続的である 出原健吾¹・関根健太郎²・八丈野孝¹・山岡直人¹・西口正通¹・○小林括平¹（¹愛媛大農・²岩手生工研）</p>	<p>640 Genetic Diversity of <i>Ralstonia solanacearum</i> Strains in Myanmar ●Htet Wai Wai, K.¹, Seint San, A.², Furuya, N.¹, Horita, M.³, Kurose, D.³, Matsumoto, M.¹, Takeshita, M.¹, and Tsuchiya, K.¹（¹Grad. School Agri. Kyushu Univ.・²Yezin Agri. Univ.・³Natl. Inst. Agro-Environ. Sci.）</p>
<p>441 罹病苗の有無と降雨がキャベツ黒斑細菌病の発生に及ぼす影響 ○石山佳幸¹・小木曾秀紀²・山岸菜穂¹・藤永真史¹（¹長野野花試・²長野野花試佐久支場）</p>	<p>541 座長 小松 健 カブモザイクウイルスに対するアラビドプシスエソ誘導遺伝子 <i>TuNI</i> のプロモーター領域の解析 ●劉 錦妍・犬飼 剛・増田 税（北大院農）</p>	<p>641 座長 川口 章 Identification of An Atypical <i>Dickeya</i> Strain (= <i>E. chrysanthemi</i>) Isolated from Carnation (<i>Dianthus caryophyllus</i>) ●Febryani, N.¹, Suharjo, R.², Shinohara, H.³, Sawada, H.⁴, and Takikawa, Y.²（¹Grad. Sch. of Agric. Shizuoka Univ.・²Grad. Sch. Sci. Tech. Shizuoka Univ.・³Tokyo Univ. of Agric.・⁴Ntl. Inst. Agrobiol. Sci.）</p>

■第2日目午後

6月3日(火)	第2会場	第3会場
14:12	<p>242 OsCERK1 はイネのペプチドグリカン応答に関与する ○香西雄介^{1,2}・中島敬介¹・望月 進¹・宮崎秀夫³・出崎能丈³・青柳伸代¹・賀来華江³・澁谷直人³・南 栄一¹・西澤洋子¹ (¹生物研・²岡山大院環境生命・³明治大農)</p>	<p>342 座長 稲田 稔 イネ稲こうじ病の新たな防除適期 濱田亜矢子¹・安達直人²・松田絵里子¹・○藪 哲男¹・田中栄爾³・伊藤望³・小原敏明⁴・津田幹雄⁴ (¹石川農試・²石川県庁・³石川県立大・⁴三井化学アグロ)</p>
14:24	<p>243 AtRLCK1 による MAPKKKa を介したキチン認識時の MAP キナーゼの活性化機構の解析 ○山口公志¹・山田健太¹・白川友美¹・石川和也¹・鳴坂真理²・鳴坂義弘²・市村和也³・深溝 慶¹・川崎 努¹ (¹近畿大農・²岡山生科研・³香川大農)</p>	<p>343 シメコナゾール粒剤の移植当日処理における稲こうじ病防除効果の生物学的および化学的要因解析 ○小原敏明¹・奥井恵美¹・濱田亜矢子²・安達直人³・松田絵里子²・田中栄爾⁴・津田幹雄¹ (¹三井化学アグロ・²石川農研・³石川県庁・⁴石川県立大)</p>
14:36	<p>244 デンジャーシグナル系を介した糸状菌抵抗性の制御 山田公嗣²・晝間 敬^{1,2}・○西條雄介^{1,2,3} (¹奈良先端大・バイオ・²マックスプランク研・植物育種・³JST さきがけ)</p>	<p>344 初すり方式による稲こうじ病粒混入量の違い 石川浩司・樋口泰浩・黒田智久・○松澤清二郎 (新潟農総研・作物研)</p>
14:48	<p>245 シロイヌナズナ <i>lic1</i> 変異体を示す PAMP 誘導免疫における抗菌物質依存的なプログラム細胞死 福永 聡¹・十亀美穂¹・Pawel Bednarek²・小野澤 (小森) 真理子¹・晝間 敬³・西内 巧⁴・齋藤宏昌⁵・寺内良平⁵・Paul Schulze-Lefert⁶・○高野義孝¹ (¹京大院農・²Polish Academy of Sciences・³奈良先端大・⁴金沢大・⁵岩手生工研・⁶Max Planck 研)</p>	<p>345 兵庫県内におけるイネいもち病 QoI 剤耐性菌の発生状況 ○内橋嘉一・神頭武嗣・西口真嗣・松浦克成 (兵庫農総セ)</p>
15:00	<p>246 座長 田中千尋 Comparative genomics of multiple <i>Colletotrichum</i> isolates from the gloeosporioides species complex Gan, P.¹, Ikeda, K.², Narusaka, M.³, Narusaka, Y.³, Irieda, H.², Kubo, Y.⁴, Takano, Y.², and ○Shirasu, K.¹ (¹RIKEN・²Kyoto Univ・³Okayama RIBS・⁴Kyoto Pref. Univ)</p>	<p>346 2013 年広島県のイネいもち病菌およびキク白さび病菌に対する Qo 阻害剤の感受性調査 ○松浦昌平¹・吉岡弥生²・佐伯浩輔³・山村哲史⁴・岡村信三⁴ (¹広島総研農技セ・²広島西部指導所・³広島東部指導所・⁴広島北部指導所)</p>
15:12	<p>247 ウリ類炭疽病菌におけるホメオボックス転写因子 CoHox1 の機能解析 ●横山 綾¹・泉津弘佑¹・谷口拓矢¹・多々良康香¹・小玉紗代²・入江俊一¹・鈴木一実¹ (¹滋賀県大環境・²京府大院生環)</p>	<p>347 イネの病気はイネ由来の抗菌性蛋白質で防ぐ：イネディフェンシン蛋白質の利用可能性の検討 ○提箸祥幸¹・高久洋暁²・矢頭 治³ (¹農研機構・北農研・²新潟薬大・応生科・³農研機構・中央農研)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>442 キャベツパーティシリウム萎凋病における被害解析と要防除水準 ○池田健太郎¹・柴田 聡¹・酒井宏¹・漆原寿彦²・加部 武¹・吉田重信³・對馬誠也³ (¹群馬農技セ・²群馬県庁・³農環研)</p> <p>443 キャベツ根こぶ病の発病ポテンシャルに影響する土壌病害診断項目の選定 ○鈴木啓史¹・黒田克利¹・辻 朋子¹・對馬誠也² (¹三重農研・²(独)農環研)</p> <p>444 雪腐褐色小粒菌核病による秋播コムギの減収程度 ○相馬 潤 (道総研中央農試)</p>	<p>542 <i>Rehmannia mosaic virus</i> 日本株感染トマト植物における温度感受性の全身壊疽誘導に移行タンパク質が関わる ●徳永雅之・大辻賢太郎・木場章範・曳地康史 (高知大農)</p> <p>543 Tm-2^a 抵抗性トマト品種に全身えそ症状を引き起こすトマトモザイクウイルスの発生 ●半田翔也¹・熊谷直樹¹・古家 忠²・西川尚志¹・夏秋知英¹ (¹宇都宮大農・²熊本農研セ)</p> <p>544 クローバ葉脈黄化ウイルス 90-1 Br2 株の P3N-PIPO はエンドウ PI 226564 の致死性全身えそ病徴に關与する ●鈴木春香¹・比佐雄亮¹・厚見 剛²・中原健二¹ (¹北大院農・²岩手生工研)</p> <p>545 イネとキノアにおいて壊死病徴を誘導する <i>Brome mosaic virus</i> (BMV) 因子の比較 鷲津充彦・楢林大樹・海道真典・奥野哲郎・○三瀬和之 (京大院農)</p>	<p>642 <i>Pseudomonas syringae</i> IV 群菌の系統とコロナチン生成について ●遠 瑞枝・瀧川雄一 (静岡大院創造)</p> <p>643 ダイコン根部より分離された <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>maculicola</i> について ●中村陽香¹・大谷洋子²・伊藤 遥³・瀧川雄一⁴ (¹静岡大院農・²和歌山農試・³静岡大農・⁴静岡大院創造)</p> <p>644 和歌山県におけるダイコン根部腐敗・黒変症状の発生とその再現 ○大谷洋子¹・衛藤夏葉¹・中村陽香²・大見麻綾²・瀧川雄一³ (¹和歌山県農試・²静岡大農・³静岡大院創造)</p> <p>645 Unusual <i>P. wasabiae</i> strains isolated from potato in Japan ○Suharjo, R.^{1,3}, Sawada, H.², and Takikawa, Y.¹ (¹Grad. Sch. Sci. Tech. Shizuoka Univ. ²Natl. Inst. Agrobiol. Sci. ³Lampung Univ.)</p>
<p>445 座長 越智 直 昆虫病原糸状菌 <i>Lecanicillium</i> 属菌の数種病害に対する抑制効果とその特性 ○関根崇行・増田俊雄 (宮城農園研)</p>	<p>546 座長 安藤杉尋 The rgs-CaM mediated Immune Responses to Viral Infection in Tobacco ● Jeon, E.J., Tadamura, K., Hukuda, J., Masuta, C., and Nakahara, K. (Hokkaido Univ.)</p> <p>547 Response of rice heme activator protein gene (<i>OsHAP2E</i>) to virus infection ● Alam, M.M.¹, Nakamura, H.^{2,3}, Ichikawa, H.², Kobayashi, K.⁴, Yaeno, T.⁴, Yamaoka, N.⁴, and Nishiguchi, M.⁴ (¹United Grad. Sch. Agr. Sci., Ehime Univ. ²Natl. Inst. Agrobiol. Sci. ³Present Address; Grad. Sch. Agr. Life Sci., Univ. Tokyo ⁴Fac. Agr., Ehime Univ.)</p>	<p>646 座長 澤田宏之 ファイトプラズマの病原性因子 TENGU の機能領域と切断部位の特定 ●北沢優悟・吉田哲也・菅原杏子・姫野未紗子・前島健作・大島研郎・難波成任 (東大院農)</p> <p>647 <i>Pantoea ananatis</i> Group I の病原性に關与する特異的遺伝子領域について ●久保田雄貴¹・木戸一孝²・瀧川雄一³ (¹静岡大院農・²(株)サカタのタネ・³静岡大院創造)</p>
<p>446 <i>Biscogniauxia</i> 属菌によるイネいもち病菌の抑制について (3) ○上野 誠・Quyêt Nguyen Thi・上田加奈・木原淳一・荒瀬 榮 (島根大・生資)</p> <p>447 拮抗微生物と耕種的防除法を組合せたジャガイモそうか病抑制 ○小林有紀¹・小林 晃¹・副島 洋² (¹農研機構・九州沖縄農研・²雪印種苗(株)技術研究所)</p>		

■第2日目午後

6月3日(火)	第2会場	第3会場
15:24	248 ウリ類炭疽病菌における MOR シグナル伝達経路は植物特異的シグナル受容を介した付着器形成に関与する ●小玉紗代・坂口 歩・久保康之(京府大院生環)	348 座長 光原一郎 ジャガイモのセスキテルペノイドは疫病菌および夏疫病菌の侵入前抵抗性に寄与する ○吉岡美樹・安達郁子・道家紀志・近藤竜彦・吉岡博文(名大院生農)
15:36	249 Dicer-dependent RNA interference for the infection-related development of <i>Colletotrichum orbiculare</i> ○Ogawa, S. ¹ , Gan, P. ² , Shirasu, K. ² , and Takano, Y. ¹ (¹ Grad. Sch. of Agric. Kyoto Univ.・ ² RIKEN CSRS)	349 CDPK および RLCK が NADPH オキシダーゼを介した ROS バーストを制御する ●白石佑太郎 ¹ ・吉岡美樹 ¹ ・安達広明 ¹ ・山口公志 ² ・川崎 努 ² ・吉岡博文 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 近大農)
15:48	250 ウリ類炭疽病菌の low affinity cAMP phosphodiesterase 遺伝子は病原性発現に重要である ●谷口拓矢 ¹ ・加藤春奈 ¹ ・泉津弘佑 ¹ ・入江俊一 ¹ ・久保康之 ² ・鈴木一実 ¹ (¹ 滋賀県大院環境・ ² 京都府大院生環)	350 MAPK-WRKY 経路は抵抗性遺伝子に依存した <i>NbrBOHB</i> の転写活性化に関与する ●安達広明 ¹ ・石濱伸明 ² ・中野孝明 ¹ ・宮川典子 ¹ ・吉岡美樹 ¹ ・八丈野孝 ³ ・白須 賢 ² ・吉岡博文 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 理研 PSC・ ³ 愛媛大農)
16:00	251 座長 山口公志 抵抗性タンパク質 Pit による OsSPK1 を介した低分子量 G タンパク質 OsRac1 活性化機構の解明 ○河野洋治・島本 功(奈良先端科学技術大学院大学)	351 植物の免疫応答に関与する MAP キナーゼの恒常活性型変異体の作出 ●波多江健太・安達広明・吉岡美樹・吉岡博文(名大院生農)
16:12	252 デュアル抵抗性蛋白質システムにおける蛋白質間相互作用の解析 1 ○鳴坂義弘 ¹ ・白須 賢 ² ・高野義孝 ³ ・白石友紀 ¹ ・久保康之 ⁴ ・鳴坂真理 ¹ (¹ 岡山生物研・ ² 理研環境資源科学セ・ ³ 京大農・ ⁴ 京府大生命環境)	352 ニジュウヤホシテントウの食害葉抽出液はペルオキシダーゼに依存した ROS バーストを誘導する ●高橋来人・千賀紀尚・吉岡美樹・佐藤 豊・新美輝幸・吉岡博文(名大院生農)
16:24	253 デュアル抵抗性蛋白質システムにおける蛋白質間相互作用の解析 2 ○鳴坂真理 ¹ ・白須 賢 ² ・豊田和弘 ³ ・白石友紀 ¹ ・高野義孝 ⁴ ・久保康之 ⁵ ・鳴坂義弘 ¹ (¹ 岡山生物研・ ² 理研環境資源科学セ・ ³ 岡大院環境生命・ ⁴ 京大農・ ⁵ 京府大生命環境)	353 座長 林 長生 タルウマゴヤシにおけるアジアダイズさび病菌に対する非宿主抵抗性の解析 3 ○石賀康博 ¹ ・Uppalapati Srinivasa R ² ・Mittal Shipra ² ・Mysore Kirankumar S ² (¹ 筑波大生命環境・ ² The Samuel Roberts Noble Foundation)
16:36	254 エクト型 ATPase (<i>PsAPY1</i>) の発現を抑制したエンドウの褐紋病菌に対する応答 ●矢尾幸世 ¹ ・高木麻衣 ² ・田中佳織 ² ・山岸紀子 ³ ・吉川信幸 ³ ・能年義輝 ^{1,2} ・稲垣善茂 ^{1,2} ・山本幹博 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・白石友紀 ^{1,2,4} ・豊田和弘 ^{1,2} (¹ 岡大農・ ² 岡大院環生・ ³ 岩手大農・ ⁴ 現 岡山生物研)	354 圃場試験によるダイズ茎疫病ほ場抵抗性の遺伝解析 ○杉本琢真 ¹ ・大木信彦 ² ・小松邦彦 ³ ・菅野正治 ⁴ ・姜 昌杰 ⁴ ・石本政男 ⁴ ・羽鹿牧太 ⁵ (¹ 兵庫県立農林水産技術総合センター・ ² 九州沖縄農業研究センター・ ³ 北海道農業研究センター・ ⁴ 農業生物資源研究所・ ⁵ 作物研究所)

第4会場	第5会場	第6会場
<p>448 白紋羽病菌非病原性菌株を用いた白紋羽病発病抑止土壌の作製 ○中村 仁・佐々木厚子（農研機構・果樹研）</p> <p>449 非病原性 <i>Plectosphaerella</i> sp. KFC005 株を用いたセルリー萎黄病およびイチゴ萎黄病の生物防除 ○藤永真史¹・山岸菜穂¹・石山佳幸¹・木本雅子²・木村晋也²（¹長野野花き試・²住友化学）</p>	<p>548 GAPDH-A は <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> のウイルス複製複合体形成を通じて細胞間移行に関与する ○海道真典・阿部一智・三瀬和之・奥野哲郎（京大院農）</p> <p>549 <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> RNA1 の翻訳には eIF4F が必要である ○田島由理・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎（京大院農）</p>	<p>648 アブラナ科植物黒腐病菌の弱病原性トランスポゾン挿入変異株の性状解析 ●加治屋太貴^{1,3}・津下誠治²・安西弘行³・古谷綾子³（¹茨大院農・²京府大院生環・³茨大遺伝子）</p> <p>649 ファイトプラズマ感染が引き起こすパープルトップ症状は宿主のアントシアニン生合成経路に依存する ○姫野未紗子・北沢優悟・吉田哲也・三浦千裕・前島健作・大島研郎・難波成任（東大院農）</p>
<p>450 座長 宇佐見俊行 乾式簡易培地を用いたチャ輪斑病菌の QoI 剤感受性検定 ○山田憲吾・石川浩一（農研機構・野菜茶研）</p>	<p>550 植物ウイルス感染による細胞死誘導のシグナル伝達経路における MAPKKK 群の相互関係 ○橋本将典¹・吉田哲也¹・小松 健²・岡野夕香里¹・石川一也¹・山次康幸¹・難波成任¹（¹東大院農・²農工大農）</p>	<p>650 宿主細胞内グルタチオンを標的とする青枯病菌 III 型エフェクターの同定 ○向原隆文・畑中唯史・小田賢司（岡山生物研）</p>
<p>451 長野県における <i>Pseudomonas cannabina</i> pv. <i>alisalensis</i> のストレプトマイシン、銅、オキシロニック酸に対する感受性 ○小木曾秀紀・石山佳幸・藤永真史・袖山栄次（長野野花試）</p> <p>452 灰色かび病菌のメパニピリムに対する感受性と菌体外へのタンパク質分泌活性の関係 ○小暮篤史¹・尾崎剛一¹・三浦一郎¹・長谷川恵介¹・鈴木啓史²・辻 朋子²（¹クミアイ化学・²三重農研）</p> <p>453 キク白さび病菌のアゾキシストロピン剤感受性 ○米田恵美¹・石井英夫²・菊池徳宏¹・郡山啓作³（¹大分農林水研花き・²農環研・³鹿児島農総セ花き）</p>	<p>551 座長 小林括平 タバコのグリシンプロリンリッチタンパク質は全身獲得抵抗性を負に制御する 福田隼也・○中原健二（北大院農）</p> <p>552 イネ縞葉枯ウイルス保毒ヒメトビウンカ成虫体内のウイルス RNA 量の解析 ○奥田 充・平江雅宏・柴 卓也（中央農研）</p> <p>553 植物の ToMV 感染がタバココナジラミに与える影響の解析 ○植田浩一¹・釘宮聡一¹・田端 純¹・光原一朗²・北本宏子¹（¹農環研・²生物研）</p>	<p>651 座長 塩谷 浩 非病原性 <i>Rhizobium vitis</i> ARK-1 株によるリンゴ、モモおよびナシ根頭がんしゅ病に対する生物防除 ○川口 章・井上幸次・谷名光治（岡山農研）</p> <p>652 非病原性 <i>Xanthomonas</i> 属細菌 11-100-01 株によるハクサイ黒腐病の発病抑制機構 ○中保一浩・井上康宏（農研機構中央農研）</p>
<p>454 ピリベンカルブに対する灰色かび病菌の感受性検定法の再検討 ○小野友慈・尾崎剛一・長谷川恵介（クミアイ化学）</p>	<p>554 ラズベリー黄化ウイルスの花粉による水平伝染の初期感染部位の解析 ●吉田 哲・吉川信幸・磯貝雅道（岩手大農）</p>	<p>653 非病原性 <i>Xanthomonas</i> 属細菌のプロコリーへの定着性 ○永井裕史^{1,3}・三宅律幸¹・加藤晋朗¹・井上康宏²・中保一浩²・瀧川雄一³（¹愛知農総試・²中央農研・³静岡大院創造）</p> <p>654 <i>Pseudomonas rhodesiae</i> HAI-0804 水和剤（マスタピース水和剤®）の各種細菌病防除効果とその特性 ○前田光紀・水井良典・細川浩靖（日本曹達株式会社）</p>

■第2日目午後

6月3日(火)	第2会場	第3会場
16:48	<p>255 エクト型 ATPase (<i>PsAPY1</i>) 高発現タバコに付与される耐病性の分子機構 中桐 萌¹・木場章範³・能年義輝^{1,2}・ 稲垣善茂^{1,2}・山本幹博^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・ 白石友紀^{1,2,4}・○豊田和弘^{1,2}(¹岡大農・ ²岡大院環生・³高知大農・⁴現 岡山生物研)</p>	<p>355 日本産ダイズ茎疫病菌に有効な抵抗性遺伝子を保有する品種の探索 ○高橋真実¹・森脇丈治²・杉本琢真³・ 荒井治喜¹ (¹農研機構・中央農研・ ²富山農総セ・園研・³兵庫農総セ)</p>
17:00	<p>256 座長 上野 誠 ACR 毒素感受性遺伝子 <i>ACRSmRNA</i> のプロセシングに関与する AmBP30 複合体構成タンパク質群の局在性 ●島上卓也・大谷耕平・小川実可子・ 北川耕次・安田晋輔・西村 聡・三宅ちか子・ 多々野智・小野由紀子・福元健志・ 市村和也・五味剣二・秋光和也(香川大農)</p>	
17:12	<p>257 宿主特異的 ACT 毒素によって誘導されるラフレモンテルペン合成酵素遺伝子の解析 ●宇治雄也¹・宍戸穂高¹・小澤理香²・ 谷口しづく¹・高林純示²・秋光和也¹・ 五味剣二¹ (¹香川大農・²京都大学生態研セ)</p>	
17:24	<p>258 イチゴ黒斑病菌の宿主特異的毒素 (AF 毒素) 感受性の遺伝的背景 (4) NGS 解析に基づいた DNA マーカー作出 池本早紀・牛島幸一郎・稲垣善茂・能年義輝・ 豊田和弘・一瀬勇規・○山本幹博 (岡大農)</p>	
17:36	<p>259 赤かび病抵抗性及びかび毒感受性に関わる <i>UBQ/RPS27a</i> 遺伝子の機能解析 ○佐々木亮輔¹・三輪晃敬¹・加藤智朗¹・ 古賀博則²・木村 真³・佐藤和広⁴・ 西内 巧¹ (¹金沢大・学際センター・ ²石川県立大・生物資源環境・ ³名大・農・⁴岡山大・植物研)</p>	
17:48		

第4会場	第5会場	第6会場
<p>455 座長 今崎伊織 薬剤耐性菌は登録外の病害でも発達することがある ○石井英夫（農環研）</p>	<p>555 日本の主要作物圃場に分布するタバココナジラミの biotype と共生細菌感染状況 ○藤原亜希子^{1,2}・土田 努¹(¹富山大・先端・²日本学術振興会 PD)</p>	<p>655 非病原性 <i>Xanthomonas</i> 属細菌の植物病原細菌に対する拮抗作用 ●森本絢子¹・瀧川雄一²・井上康宏³ (¹静岡大院農・²静岡大院創造・³農研機構中央農研)</p>
<p>456 モモ縮葉病に対する銅水和剤の秋期散布およびマシン油乳剤の防除効果 ○浅利正義（秋田鹿角農林果樹セ）</p>	<p>556 座長 海道真典 接ぎ木接種法による JAX1 抵抗性打破 potato virus X 変異株の単離 ●白石拓也・吉田哲也・北沢優悟・菅原杏子・根津 修・山次康幸・難波成任（東大院農）</p>	<p>656 座長 中保一浩 PCR-DGGE 法による接木トマト植物茎内細菌相の解析手法の検討 ●今村友哉¹・古屋成人¹・黒瀬大介²・石田絵理子¹・高原令央¹・竹下 稔¹・土屋健一¹（¹九大院農・²農環研）</p>
<p>457 コムギ雪腐黒色小粒菌核病および雪腐大粒菌核病に対する殺菌剤の残効性の評価 ○山名利一¹・小澤 徹²（¹道総研・中央農試・²道総研・十勝農試）</p>	<p>557 JAX1 抵抗性打破を引き起こす potato virus X の複製酵素 1 アミノ酸変異の解析 ●吉田哲也・白石拓也・北沢優悟・菅原杏子・根津 修・山次康幸・難波成任（東大院農）</p>	<p>657 接木トマト茎内に生息する培養可能な内生細菌群集構造の解析 ●石田絵理子¹・古屋成人¹・城野隆宏²・今村友哉¹・高原令央¹・黒瀬大介³・竹下 稔¹・土屋健一¹（¹九大院農・²横浜植防・³農環研）</p>
<p>458 温湯種子消毒を核としたセルリー萎縮炭疽病および斑点病の体系防除 ○山岸菜穂・石山佳幸・藤永真史（長野野花試）</p>	<p>558 トマトモザイクウイルスと抵抗性遺伝子 <i>Tm-1</i> の進化的軍拡競走の構造基盤 ○石橋和大¹・毛塚雄一郎²・小林千歩子¹・松村浩由³・石川雅之¹・加藤悦子¹（¹生物研・²岩手医科大・³阪大院工）</p>	<p>658 接木トマト茎内から分離された内生細菌の生物的防除素材の選抜 ●高原令央・古屋成人・石田絵理子・今村友哉・吉本翔二・竹下 稔・土屋健一（九大院農）</p>
<p>459 難透過性フィルムを利用したクロロピクリン剤畦内拡散とサツマイモ立枯病に対する防除効果 ○米本謙悟¹・田中昭人¹・三宅 圭¹・村井恒治¹・小原裕三²（¹徳島農総技支セ・²農環研）</p>	<p>559 Analysis of transgenic tomato with the inverted repeat of tomato homologs of <i>TOM1</i> in <i>Arabidopsis</i> ○Ali, M.E.¹, Ishii, Y.¹, Taniguchi, J.¹, Watanabe, Y.¹, Syounaka, M.¹, Ishikawa, M.², Kobayashi, K.¹, Yaeno, T.¹, Yamaoka, N.¹, and Nishiguchi, M.¹ (¹Fac. Agr., Ehime Univ. ・²Natl. Inst. Agrobiol. Sci.)</p>	<p>659 <i>Bacillus amyloliquefaciens</i> IUMC7 によるトマト青枯病のバイオコントロール ●外山 耕¹・中島雅己²・阿久津克己²（¹農工大院連農・²茨城大農）</p>
	<p>560 イネ縞葉枯病抵抗性遺伝子 <i>Stvb-i</i> 保有品種のウイルス感染および増殖と発病 ○早野由里子（農研機構・中央農研）</p>	<p>660 アクリル系ナノポリマーによるトマト青枯病防除効果と作用機作 森川憂乃¹・石川詩歩¹・森 友花¹・大西浩平¹・木場章範¹・城武昇一²・○曳地康史¹（¹高知大農・²横浜市大医）</p>

■第3日目午前

6月4日(水)	第2会場	第3会場
9:00	261 座長 神頭武嗣 Stemphylium lycopersici によるネメシアメロウ葉枯病 (新称) と Botrytis cinerea によるネメシアメロウ灰色かび病 (新称) の発生 ●野澤俊介 ¹ ・堀井直哉 ¹ ・渡辺京子 ^{1,2} (¹ 玉川大農・ ² 玉川大菌学応用)	361 座長 鎌倉高志 抵抗性遺伝子導入品種がいもち病菌集団に及ぼす影響解析 ○鈴木文彦 ¹ ・芦澤武人 ¹ ・光永貴之 ¹ ・善林 薫 ² ・石原岳明 ¹ ・早野由里子 ¹ (¹ 農研機構・中央農研・ ² 農研機構・東北農研)
9:12	262 ホワイトレースフラワー黄斑病の種子伝染の解明 ○鐘ヶ江良彦 ¹ ・田中千華 ² ・海老原克介 ¹ ・植松清次 ¹ (¹ 千葉県農林総研・ ² 安房農事)	362 非親和性いもち病菌による抵抗性誘導と親和性いもち病菌による受容性誘導現象の可視化とその誘導範囲の解析 ●阪野みのり・浦山俊一・Khalid Madadi Abdul・小松 健・有江 力・寺岡 徹 (農工大院農)
9:24	263 オダマキ紫斑病菌の種同定(Stemphylium lancipes) および病原性の確認 ○佐藤 衛 ¹ ・築尾嘉章 ^{1,2} ・松下陽介 ¹ (¹ 農研機構・花き研・ ² 現在:富山農総技セ)	363 Pyricularia oryzae Setaria Pathotype の野生 Setaria 属植物に対する病原性 堤 一礼 ² ・○草場基章 ¹ (¹ 佐賀大農・ ² JA 佐賀)
9:36	264 カラー斑点病菌およびカラー褐斑病菌による仏炎苞への加害 ●松原千純 ¹ ・海老原克介 ² ・市東豊弘 ³ ・鐘ヶ江良彦 ² ・宇佐見俊行 ¹ (¹ 千葉大院園・ ² 千葉農林総研セ・ ³ 君津農事)	364 エンバクいもち病菌のコムギに対する非病原力遺伝子 PWT3 のクローニングおよびその進化過程の解析 ○Vy Trinh ¹ ・井上喜博 ¹ ・吉田健太郎 ² ・寺内良平 ² ・中馬いづみ ¹ ・土佐幸雄 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 岩手生工研)
9:48	265 カノコソウ半身萎凋病 (新称) の発生について ○小松 勉 (道総研中央農試)	365 エンバクいもち病菌のコムギに対する非病原力遺伝子 PWT4 のクローニングおよびその進化過程の解析 ○井上喜博 ¹ ・Vy Trinh ¹ ・吉田健太郎 ² ・三岡周子 ² ・麻野北斗 ¹ ・寺内良平 ² ・中馬いづみ ¹ ・土佐幸雄 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 岩手生工研)
10:00	266 ハクサイ黄化病菌 Verticillium dahliae と V.longisporum の発病程度について ○田中一史・池田健太郎・小山千明・加部 武 (群馬農技セ)	366 座長 草場基章 イネいもち病菌付着器形成時に特異的発現する CBPI 遺伝子の転写調節因子について 山口 晃 ¹ ・●小澤 優 ¹ ・原島聡子 ¹ ・泉川桂一 ¹ ・齋藤憲一郎 ¹ ・有江 力 ¹ ・小松 健 ¹ ・鎌倉高志 ² ・寺岡 徹 ¹ (¹ 農工大院農・ ² 東京理科大学)
10:12	267 座長 須賀晴久 トマト半身萎凋病抵抗性遺伝子 Ve1 を持つトマト品種による FoAve1 の認識 松浦佳代子 ¹ ・●大村祐輔 ² ・門馬法明 ³ ・宇佐見俊行 ^{1,2} (¹ 千葉大院園・ ² 千葉大院園・ ³ 園研)	367 イネいもち病菌のキチンデアセチラーゼ様タンパク質 Cbp1 の感染特異的器官分化に関わる機能解析 ○黒木美沙 ¹ ・吉田 翔 ¹ ・齋藤憲一郎 ² ・寺岡 徹 ² ・奈良 恵 ¹ ・鎌倉高志 ¹ (¹ 東理大・ ² 農工大)

第4会場	第5会場	第6会場
<p>461 座長 青木孝之 タバコ BY-2 細胞の ROS 生成パターンを指標とした新規植物免疫活性化候補化合物の選抜と作用機構の解析 ●吉川岳史¹・北畑信隆¹・八木智華子¹・来須孝光^{1,2,4}・浅見忠男³・朽津和幸^{1,2} (1 東京理科大院理工・2 東京理科大院総研・3 東大院農学生命科学・4 東京工科大応用生物)</p> <p>462 付着器形成に関わる新規分子標的の探索 熊坂菜佑・石井 晶・●野坂亮仁・池田健太郎・イサグウイレ ヘスス・菅原二三男・奈良 (成川) 恵・鎌倉高志 (東理大理工)</p> <p>463 全ゲノム手法を用いた殺菌剤耐性点の網羅的同定 ○泉津弘佑¹・宮川 恒²・田中千尋² (1 滋賀県大環境・2 京大院農)</p> <p>464 サリチル酸配糖化酵素を用いた抵抗性誘導剤の標的ベース探索 ○能年義輝¹・渡邊 恵¹・香西雄介¹・山中由利恵¹・木村麻美子^{1,2}・熊谷和夫² (1 岡大院環境生命・2 東大 OCDD)</p> <p>465 非 SAR 系防御応答遺伝子の発現を誘導する化合物の特徴付けについて ○小倉里江子¹・大嶽正樹¹・石川晴登²・浜田紗稀²・尾形信一¹・平塚和之¹ (1 横浜国大院環境情報・2 横浜国大工)</p>	<p>561 座長 笹谷孝英 各種ウイルス由来 5' 非翻訳領域 (5'UTR) の翻訳エンハンサー活性ならびに Internal Ribosome Entry Site (IRES) 活性について ●市川理恵・中浜克彦・稲本 敦・原千晶・小倉里江子・平塚和之 (横浜国大院環境情報)</p> <p>562 ダイアンソウイルスゲノム RNA2 の合成制御に関わる新規 RNA 因子 ●永井比加里・田島由理・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京都大学大学院農学研究科 応用生物科学専攻 植物病理学研究室)</p> <p>563 トマト黄化えそウイルス ヌクレオプロテイン-RNA 複合体の結晶構造解析 ○薦田圭介・成田聖実・山下恵太郎・田中 勲・姚 閔 (北大院生命)</p> <p>564 トマトモザイクウイルス移行タンパク質との一過共発現下における 126-kDa 複製タンパク質の細胞内局在および動態の解析 ○佐々木信光・宍倉竜樹・丹生谷博 (農工大)</p> <p>565 RAD6, an ubiquitin-conjugating enzyme, and AtUBC2, the ortholog in <i>Arabidopsis</i>, regulate viral RNA replication in yeast and plant ○Imura, Y.^{1,2}, Molho, M.², Chuang, C.², and Nagy, P.D.² (1 Nihon Univ, Col of Bioresources・2 University of Kentucky)</p>	<p>661 座長 竹内香純 米ぬかによるジャガイモそうか病抑制機構の解明 1) フィチン酸の関与 ○富濱 毅¹・西 八束¹・森 清文¹・高橋直和²・池田成志³ (1 鹿児島県農総セ・2 サンアグロ (株)・3 北農研)</p> <p>662 サクラ類のこぶ病抵抗性に関与する光要因について ○石原 誠¹・秋庭満輝²・佐橋憲生²・池田武文³ (1 森林総研北海道・2 森林総研・3 京都府立大)</p> <p>663 トマト接ぎ木部における青枯病菌及び PR タンパク質の分布 ○佐藤秀明¹・中保一浩² (1 新潟農総研園芸研・2 農研機構中央農研)</p> <p>664 ワサビ軟腐病菌を宿主とするバクテリオファージ F100 の性状解析 ●柏原美紗子・藤代 京・露無慎二・平田久笑 (静岡大農)</p> <p>665 <i>Pseudoxanthomonas</i> 属細菌によるきのこ腐敗病原毒素トラシンの解毒機構 ●金子 愛¹・松尾裕樹¹・七海隆之²・石井謙一²・篠原弘亮²・横田健治¹ (1 東農大院農化・2 東農大農)</p>
<p>466 座長 小坂橋基夫 新規殺菌剤ピリオフェノン (プロパティ®) に関する研究 ~ 第 5 報 ウリ類うどんこ病感受性検定 ○小川宗和・西村昭廣・河合ゆずか (石原産業中研)</p> <p>467 新規殺菌剤イソフェタミド (ケンジャ®) に関する研究 ~ 第 2 報 イソフェタミドの作用機構と植物病原菌の生育過程に与える影響 ○佃晋太郎・小川宗和・三谷 滋 (石原産業中研)</p>	<p>566 座長 近藤秀樹 ジャガイモモップトップウイルスのリードスルータンパク質欠失変異体の菌伝搬性 ○畑谷達見¹・中山尊登² (1 北大院農・2 北海道農研)</p> <p>567 木質細胞の異常分化と葉の新生を誘導するウイルスタンパク質の細胞内局在解析 ○厚見 剛・富田麗子・関根健太郎 (岩手生工研)</p>	<p>666 座長 鍵和田聡 マクロアレイを用いたマイクロチューブハイブリダイゼーション法によるテンサイ西部萎黄ウイルスの検出 ○古田和義¹・上田重文²・増田 税³ (1 ホクサン・2 北海道農研・3 北大院農)</p> <p>667 リアルタイム PCR による土壌からの <i>Ophiovirus</i> の検出・定量 ○桃井千巳¹・森脇丈治¹・守川俊幸² (1 富山農総セ園研・2 富山農総セ農研)</p>

■第3日目午前

6月4日(水)	第2会場	第3会場
10:24	268 擬有性生殖によるトマト半身萎凋病菌の交雑と病原性に関する染色体の推定 ●飯田尚子・大村祐輔・宇佐見俊行（千葉大院園）	368 MoSET1 ヒストンメチルトランスフェラーゼに依存したいもち病菌の感染器官形成時の遺伝子発現 ファミ キウ・井上義博・池田健一・○中屋敷均（神戸大院農）
10:36	269 トマト半身萎凋病菌の新レース（レース3）について 吉野浩平 ² ・門馬法明 ³ ・渡辺秀樹 ⁴ ・水川 誠 ⁵ ・林 明良 ³ ・○宇佐見俊行 ^{1,2} （ ¹ 千葉大院園・ ² 千葉大園・ ³ 園研・ ⁴ 岐阜農セ・ ⁵ 岐阜飛騨農林）	369 人工培地上における付着器と侵入菌糸の形成 ○田中榮爾（石川県立大学）
10:48	270 トマトアルターナリア茎枯病菌が保有する非リボソーム型ペプチド合成酵素(NRPS) 遺伝子 <i>AaNRPS4</i> の機能解析 ●大空 岳 ^{1,2} ・赤木靖典 ¹ ・難波栄二 ³ ・児玉基一郎 ¹ （ ¹ 鳥取大農・ ² 名大院生農・ ³ 鳥取大医）	370 Platinum Gate TALEN システムを用いたイネいもち病菌における高効率遺伝子ターゲティング ○荒添貴之 ¹ ・用之丸哲也 ¹ ・大里修一 ¹ ・佐久間哲史 ² ・山本 卓 ² ・有江力 ³ ・桑田 茂 ¹ （ ¹ 明治大院農・ ² 広大院理・ ³ 農工大院農）
11:00	271 病原性の異なる <i>Botrytis cinerea</i> 野生株の活性酸素種代謝能に関する研究 ●國府田こごみ・中島雅己・阿久津克己（茨城大農）	371 座長 兼松聡子 イネいもち病菌マイコウイルス MoCV1-A の感染は宿主菌の病原力を低下させ病原性をも変化させる ○浦山俊一・Minh Tuong Le・加藤 優・福原敏行・小松 健・有江 力・森山裕充・寺岡 徹（農工大院農）
11:12		372 日本国内で発生したイネいもち病病斑からの <i>Magnaporthe oryzae chrysovirus 1</i> 近縁マイコウイルスの検出 ○寺岡 徹 ¹ ・浦山俊一 ¹ ・加藤 優 ¹ ・福原敏行 ¹ ・藤 晋一 ³ ・小林 隆 ² ・長谷 修 ² ・小松 健 ¹ ・有江 力 ¹ ・森山裕充 ¹ （ ¹ 農工大院農・ ² 山形大農・ ³ 秋田県大生資）
11:24		373 日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウイルス MoCV1 の性状解析 ●加藤 優 ¹ ・浦山俊一 ¹ ・福原敏行 ¹ ・藤 晋一 ³ ・小林 隆 ² ・長谷 修 ² ・小松 健 ¹ ・有江 力 ¹ ・森山裕充 ¹ ・寺岡 徹 ¹ （ ¹ 農工大院農・ ² 山形大農・ ³ 秋田県大生資）

第4会場	第5会場	第6会場
<p>468 新規殺菌剤イソフェタミド(ケンジャ®)に関する研究～第3報 灰色かび病菌の感受性モニタリング及びSDHi 剤低感受性菌株に対する影響 ○河合ゆずか・佃晋太郎・小川宗和・三谷 滋(石原産業中研)</p> <p>469 新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第1報)ピカルブトラゾクスの殺菌作用特性 ○山中 誉・瓜原一郎・細川浩靖・横田 因(日本曹達(株))</p> <p>470 新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第2報)ピカルブトラゾクスの特性と圃場における効果 ○渡辺慎也・加登一成・佐野 博・斎賀睦幸・藤井 聡・原本雅昇(日本曹達株式会社)</p> <p>471 光増感反応を利用した病害防除技術開発のための光増感活性の簡易評価法 ○寺見文宏¹・佐藤 衛²(¹農研機構*野菜茶業研究所・²農研機構*花き研究所)</p> <p>472 座長 大藤泰雄 メロン幼苗を使ったメロン黒点根腐病菌の土壌からの検出 ○門馬法明¹・植松清次²・佐藤竜馬³・大塚悠真⁴(¹園研・²千葉農林総研暖地・³千葉大園・⁴千葉大院)</p> <p>473 DNA マイクロアレイを用いた植物病害診断の応用研究 ○一色淳憲・大津貴義(東洋製罐GHD 総研)</p>	<p>568 Examination of intracellular localization of the p33 protein of <i>Citrus tristeza virus</i> ○Kim, O.-K.¹, Davis, C.², Shilts, T.³, El-Mohtar, C.A.³, and Folimonova, S.Y.² (¹TUA, Dept. Agriculture・²UF, Dept. Plant Pathol.・³UF, CREC)</p> <p>569 タバコモザイクウイルス複製タンパク質は翻訳と共役してゲノム RNA の 5' 非翻訳領域に結合し、さらなる翻訳を阻害する 河村(長屋)和恵・石橋和夫・宮下脩平・○石川雅之(生物研)</p> <p>570 トマトモザイクウイルス複製タンパク質と各ドメインの機能の cis 性・trans 性 ○宮下脩平・石川雅之(生物研)</p> <p>571 座長 井村喜之 キュウリモザイクウイルスに感染したタバコにおける transcriptome・small RNAome 解析 ●山崎稜太・望月知史・大木 理(大阪府大院生環)</p> <p>572 Involvement of the 2b Gene of the Mild Strain of <i>Cucumber mosaic virus</i> (CMV-m1) in the Attenuated Virulence ●Maneechoat, P., Takeshita, M., Kuroda, A., Uenoyama, M., Nakatsukasa, M., Furuya, N., and Tsuchiya, K. (Grad. School Agri. Kyushu Univ.)</p> <p>573 ハイスルーブットなアグロインフィルトレーション法による数種植物ウイルス由来 RNA サイレンシングサプレッサーの活性評価について ●田村英人・安井百合愛・小倉弘太郎・緒方裕一・林原千恵子・小倉里江子・平塚和之(横浜国大院環境情報)</p>	<p>668 イチゴ斑紋ウイルス感染イチゴ苗から検出される2種のRNA2 ●出井沙織・西川尚志・夏秋知英(宇都宮大農)</p> <p>669 Isolation and Identification of a Begomovirus Infecting Hibiscus spp. in the Philippines ○Dolores, L.M., Gonzales, M.C., and Magdalita, P.M. (University of the Philippines Los Banos (UPLB))</p> <p>670 バイローム解析で明らかになった芽枯病罹病オウトウ樹の多重ウイルス感染 ○吉川信幸¹・小山田早希¹・八重樫元²・山岸紀子¹・後藤新一³・磯貝雅道¹・伊藤 伝²(¹岩手大農・²果樹研リンゴ・³山形園試)</p> <p>671 座長 奥田 充 日本産ユズより検出した <i>Citrus vein enation virus</i> (CVEV) のゲノム RNA の塩基配列 ○長岡(中菌)栄子¹・藤川貴史¹・宇賀博之²・上地奈美¹・宮田伸一¹・岩波 徹¹(¹農研機構・果樹研・²埼玉農総研)</p> <p>672 我が国が侵入警戒を要する8種ポスピウイルスの網羅的検出系の開発 ○志岐悠介¹・柳澤広宣¹・松下陽介²・大石盛伝¹・高上直樹¹・津田新哉³(¹横浜植防・²花き研・³中央農研)</p> <p>673 マルチプレックス RT-PCR によるダリアからのトマト黄化えそウイルス、ダリアモザイクウイルス、キク矮化ウイルスの同時検出 ○浅野峻介¹・松下陽介²・平山喜彦¹・仲 照史¹・印田清秀¹(¹奈良農総セ・²農研機構・花き研)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>474 Robust Matching and Segmentation Algorithm for Detecting Cercospora Leaf Spot in Sugar Beet under Real Field Conditions ● Zhou, R.¹, Kaneko, S.¹, Tanaka, F.², Kayamori, M.², and Simizu, M.² (¹Graduate School of Information Science and Technology, Hokkaido University • ²Central Agricultural Experiment, Agricultural Research Department, Hokkaido Research Organization)</p> <p>475 奄美群島におけるカンキツグリーンング病の感染拡大モデルの構築 堀江宏彰²・○浦野 知¹・宮田伸一³・岩波 徹³ (¹ペコ IPM パイロット・²鹿児島・特殊病害虫・³農研機構・果樹研)</p>	<p>574 植物ウイルスの RNA サイレンシング サプレッサーを発現するリンゴ小球形潜在ウイルス (ALSV) ベクターのベンサミアナタバコでの病原性 ○李 春江・吉川信幸 (岩手大学農学部)</p> <p>575 Genetic and molecular characterization of Rice tungro bacilliform virus resistance derived from cultivar Utri Merah ○ Encabo, J.R.^{1,2}, Shim, J.-H.¹, Macalalad, R.J.A.¹, Chen, S.², Kishima, Y.², and Choi, I.-R.¹ (¹Plant Breeding, Genetics and Biotechnology Division, International Rice Research Institute, Los Banos, Laguna, Philippines • ²Laboratory of Plant Breeding, Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University)</p>	<p>674 つまようじを用いた multiplex RT-PCR によるウメ輪紋ウイルスの簡易診断 ○遠藤三千雄¹・蝶名林春香¹・山井加奈美¹・菅原優司²・加藤綾奈²・小野 剛²・勝木俊雄³・川合 昭¹・鍵和田聡¹・西尾 健¹ (¹法政大植医・²東京農総セ・³森林総研)</p> <p>675 テンサイ西部萎黄病ウイルスの検出とアブラムシ種の同定を同時に行う方法 高篠賢二¹・小西和彦¹・○眞岡哲夫¹・上田重文¹・大木健広¹・三浦一芸² (¹北海道農研・²近中四農研)</p>

■第3日目午後

6月4日(水)	第2会場	第3会場
13:00	<p>276 座長 高野義孝 <i>Colletotrichum tofieldiae</i> は、シロイヌナズナに無病徴感染しリン不足条件下で宿主の成長を促す ○晝間 敬^{1,2}・Kracher Barbara²・中野亮平²・Soledad Sacristán⁴・Richard O'Connell³・Paul Schulze-Lefert² (1 奈良先端大・² マックスプランク研究所・³INRA・⁴CBGP)</p>	<p>376 座長 三好孝典 <i>Botryosphaeria dothidea</i> によるカキ疑似炭疽病 (新称) ○加藤光弘¹・外側正之²・十亀美穂³・石井香奈子¹ (1 静岡農林研果研セ・² 静岡農林研茶研セ・³ 静岡西部農林)</p>
13:12	<p>277 牧草共生糸状菌 <i>Epichloë festucae</i> の Cdc42 および RacA の機能における相互作用因子結合能の重要性に関する解析 ○榎野友香・田中愛子・竹本大吾 (名大院生農)</p>	<p>377 <i>Colletotrichum acutatum</i> によるカンキツ小黑点病 (病原追加) ○村本和之・東浦祥光 (山口農林総セ)</p>
13:24	<p>278 トウモロコシごま葉枯病菌の2種類の低分子量 GTPase, Cdc42 および Rac1 は正常な病原性発現や分生子形成に必須である ●北出雄生¹・泉津弘佑²・住田卓也¹・湯谷 智¹・田中千尋¹ (1 京大院農・² 滋賀県大環境科学)</p>	<p>378 ビワ園土壌から採集された土壌生息糸状菌の白紋羽病菌に対する拮抗性 ○内川敬介¹・中村 仁²・佐々木厚子²・副島康義¹ (1 長崎農技セ果樹・² 農研機構果樹研)</p>
13:36	<p>279 ムギ類赤かび病菌における FGSG02810 遺伝子破壊による病原性と子のう殻形成能の喪失 ○須賀晴久¹・船坂美佳¹・清水将文²・景山幸二³・百町満朗² (1 岐大生命セ・² 岐大応生・³ 岐大流域研セ)</p>	<p>379 QoI 剤耐性リンゴ炭疽病菌の発生分布と各種薬剤の効果 ○赤平知也・花岡朋絵・平山和幸 (青森産技セりんご研)</p>
13:48	<p>280 サンセベリア炭疽病菌由来 α-1,3 グルカン合成酵素遺伝子 <i>CsAgs</i> について ●小野山佳佑¹・中村正幸²・岩井久² (1 鹿児島大院連農・² 鹿児島大農)</p>	<p>380 カンキツ褐色腐敗病の発病に及ぼす温度、濡れ時間および浸透移行性殺菌剤散布の影響 ○野口真弓¹・白石祥子¹・川内孝太¹・田代暢哉²・口木文孝¹ (1 佐賀果樹試・² 佐賀上場営農セ)</p>
14:00	<p>281 座長 中村 仁 施設栽培での換気と加温の組み合わせによるナスすすかび病の防除 ○下元祥史・岡田知之・山崎睦子・矢野和孝・森田泰彰 (高知農技セ)</p>	<p>381 座長 中島雅己 PCR-DGGE 法に基づく土壌微生物相とハクサイ黄化病発病程度との関係の解析 ○長瀬陽香¹・丹羽理恵子¹・松下裕子¹・池田健太郎²・山岸菜穂³・串田篤彦⁴・岡田浩明¹・吉田重信¹・對馬誠也¹ (1 農環研・² 群馬農技セ・³ 長野野花試・⁴ 北農研セ)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
<p>476 座長 佐久間太 線虫抵抗性ナス属台木品種による線虫密度低減効果と抵抗性機構 ○植原健人¹・中保一浩¹・水久保隆之¹・増田 税² (1 農研機構・中央農研・2 北大院農)</p> <p>477 合成ふ化促進物質 Solanoclepin A による土壤中のジャガイモシストセンチュウ密度低減効果 ○奈良部孝¹・谷野圭持² (1 農研機構・北農研・2 北大院理)</p> <p>478 リアルタイム PCR 法を用いたネコブセンチュウの迅速評価 ●兒山裕貴¹・三原千加子²・門馬法明³・豊田剛己¹ (1 農工大院・2 千葉県印旛農業事務所・3 園研)</p> <p>479 日本の輸入植物検疫制度における病害虫リスクアナリシス (PRA) ○大藤泰雄・鈴木清樹・上松 寛・関本茂行 (農研機構・中央農研)</p> <p>480 病害虫リスクアナリシスのための時空間的マルチスケールでみた作物病害虫の侵入段階 ○鈴木清樹・大藤泰雄 (農研機構・中央農研)</p>	<p>576 座長 志村華子 オオバコモザイクウイルス (plantago asiatica mosaic virus; PIAMV) を用いた外来遺伝子発現ベクターの構築 ○小松 健¹・湊 菜未²・北沢優悟²・岡野夕香里²・前島健作²・山次康幸²・難波成任² (1 農工大院農・2 東大院農)</p> <p>577 plantago asiatica mosaic virus ベクターの RNA サイレンシング抑制能を利用した高効率な外来遺伝子発現 ●湊 菜未¹・小松 健²・北沢優悟¹・岡野夕香里¹・前島健作¹・山次康幸¹・難波成任¹ (1 東大院農・2 農工大院農)</p> <p>578 ラズベリー黄化ウイルスを基にした VIGS 誘導能を持つウイルスベクターの作製 ●志村拓哉・藤原早希・山岸紀子・吉川信幸・磯貝雅道 (岩手大農)</p> <p>579 Beet severe curly top virus 由来の人工二粒子性ベクターを利用した複数の遺伝子のサイレンシング ●渡邊希香・坂根 彩・鈴木 匡・宇垣正志 (東大院新領域)</p> <p>580 リンゴ小球形潜在ウイルス (ALSV) ベクターによる植物内在性遺伝子のウイルス誘導性転写型遺伝子サイレンシング (VITGS) ○今 辰哉・吉川信幸 (岩手大農)</p> <p>581 座長 竹下 稔 トケイソウ東アジアウイルス指宿系統 (EAPV-IB) の感染性 cDNA クローンの構築 ●千秋祐也¹・神門 英²・福元智博³・中村正幸²・岩井 久² (1 鹿児島大院連農・2 鹿児島大農・3 鹿児島農総セ果樹部)</p>	<p>676 座長 藤 晋一 ウメ輪紋ウイルス (plum pox virus, PPV) のキメラ感染性クローンの構築と抗体診断系への応用 ○前島健作¹・吉田哲也¹・根津 修¹・姫野未紗子¹・石川一也¹・小松 健²・難波成任^{1,3} (1 東大院農・2 農工大院農・3 東大植物病院)</p> <p>677 抗ペプチド抗体を用いた Rice yellow mottle virus の検出 ●鶴家綾香・夏秋啓子 (東京農大国際)</p> <p>678 Southern rice black-streaked dwarf virus (SRBSDV) P9-1 タンパク質の大腸菌による発現と抗血清の作製 ○酒井淳一・大貫正俊 (農研機構九州沖縄農研)</p> <p>679 改良 DIBA (Dot Immuno-binding Assay) 法を用いたキュウリ黄化えそ病診断キット ○櫛間義幸¹・大坪早貴¹・黒木修一²・菅野善明³・寺本 敏¹ (1 宮崎県総合農業試験場・2 宮崎県営農支援課・3 南九大環)</p> <p>680 メロン黄化えそウイルスの迅速免疫ろ紙検定法 (RIPA 法) に用いる代替粒子の探索 ○甲把 (安達) 理恵¹・津田新哉² (1 高知県環境農業推進課・2 農研機構・中央農研)</p> <p>681 座長 森山裕充 糸状菌におけるデュアルルシフェラーゼ実験系の確立とマイコウイルス IRES エLEMENTの同定 ○千葉壮太郎・近藤秀樹・鈴木信弘 (岡山大学・植物研)</p>

■第3日目午後

6月4日(水)	第2会場	第3会場
14:12	<p>282 現地圃場におけるカラシナ鋤込み太陽熱消毒によるハウレンソウの土壤病害軽減効果(第2報) ○伊藤陽子¹・竹原利明¹・富岡啓介¹・野見山孝司¹・須賀有子²・佐藤恵利華¹・福永亜矢子¹・関口博之¹・生駒泰基¹(¹近中四農研・²中央農研)</p>	<p>382 ニラ白斑葉枯病菌の種構成の季節間および年次間変動 ○三澤知央¹・竹内正信²(¹道総研道南農試・²檜山農改セ)</p>
14:24	<p>283 温度条件が拮抗菌 <i>Coniothyrium minitans</i> の生育に与える影響 ○岩本 豊¹・小川宗和²・林 博之²・相野公孝¹(¹兵庫農総セ・²石原産業(株))</p>	<p>383 ナスフザリウム立枯病に対する有効薬剤の探索と感染条件の検討 ○岡田知之・下元祥史・森田泰彰(高知農技セ)</p>
14:36	<p>284 薬剤処理した爪楊枝を罹病果に突き立てて実施する、灰色かび病菌の薬剤感受性簡易検定法 ○吉原茂昭・唐津達彦・角田佳則・福原宏行(山口農林総セ)</p>	<p>384 抵抗性品種の導入がトマト葉かび病菌のアゾキシストロビン感受性分布に及ぼす影響 ○渡辺秀樹¹・桑原圭司²・遠藤彰将³・足立昌俊¹・飯田祐一郎⁴(¹岐阜農技セ・²元岐阜防除所・³岐阜恵那農林事務所・⁴農研機構 野菜茶研)</p>
14:48	<p>285 ジャガイモ粉状そうか病菌の不活化によるジャガイモモップトップウイルス伝染環の遮断 ○中山尊登(農研機構・北海道農研)</p>	<p>385 ショウガ根茎暗斑病菌の他植物に対する病原性および土壌くん蒸剤と殺菌剤による殺菌効果 ○山崎睦子・森田泰彰(高知農技セ)</p>

第4会場	第5会場	第6会場
	<p>582 ダイズおよびツルマメに対するクロロバ葉脈黄化ウイルスの病原性の比較 ●阿部純也¹・山田哲也¹・阿部 純¹・M. Reza Hajimorad²・中原健二¹ (¹北大院農・²テネシー大農)</p> <p>583 ソラマメウルトウイルス2 (BBWV2) TN 分離株が <i>Nicotiana benthamiana</i> に壊疽を誘導するゲノムの特定 ○藤 晋一¹・澤田隆行¹・梅澤泰信¹・関根健太郎²・厚見 剛²・川上清久³・水谷朱美³・戸田 武¹・古屋廣光¹ (¹秋田県大生資・²岩手生工研・³ベルディ)</p> <p>584 リンゴ小球形潜在ウイルスの全身感染に及ぼすカボチャ実生の成育ステージの影響 ○山岸紀子・近藤李奈子・吉川信幸 (岩手大農)</p> <p>585 コムギ縞萎縮ウイルス2系統の感染性cDNA クローンの構築 ○大木健広¹・笹谷孝英²・白子幸男³・眞岡哲夫¹ (¹北海道農研・²九州沖縄農研・³東大アジア生研)</p>	<p>682 Expression strategy and biological properties of <i>Rosellinia necatrix</i> megabirnavirus 1 analyzed in an experimental host Salaipeth, L.¹, Chiba, S.¹, Eusebio-Cope, A.¹, Kanematsu, S.², and ○ Suzuki, N.¹ (¹IPSR, Okayama Univ. ・²IFTS, NARO)</p> <p>683 <i>Rosellinia necatrix</i> megabirnavirus 1 の機能未知 ORF の部分欠損変異株の解析 ○兼松聡子・清水健雄・八重樫元・伊藤 伝 (農研機構果樹研リンゴ)</p> <p>684 白紋羽病菌 <i>Rosellinia necatrix</i> のメガビルナウイルス感染株におけるトランスクリプトーム解析 ○清水健雄・八重樫元・伊藤 伝・兼松聡子 (果樹研 リンゴ)</p> <p>685 マイコウイルス感染による白紋羽病菌 RNA サイレncing関連遺伝子の発現上昇 ○八重樫元・清水健雄・伊藤 伝・兼松聡子 (果樹研リンゴ)</p>